

Ⅳ 被害経験から見た少年院在院者の特徴

第13 家族以外の者からの被害と家族からの被害の関係

これまでの項では家族以外の者からの被害についての概要を述べた。本項では、この家族以外の者からの被害と、第1報告で取り上げた家族からの被害経験との関係について分析を行うとともに、これら被害を両方経験している者、家族以外の者からの被害のみ経験している者、家族からの被害のみ経験している者、両方経験していない者、それぞれの群に該当する少年院在院者の特性について全体的に検討する（以下、家族以外の者からの被害を「一般被害」という。）。

1 分析の視点

本項での分析は以下の視点で行う。

- ・一般被害と家族からの被害の間で、被害経験の有無に関連は見られるか。…(1)
- ・それぞれの被害を受け始めた時期と非行の初発時期との間に関連は見られるか。…(2)
- ・それぞれの被害経験の有無と非行性との間に関連は見られるか。…(3)
- ・それぞれの被害経験の有無により、性格特性に差は見られるか。…(4)

2 分析結果

(1) 家族以外の者からの被害の有無と家族からの被害の有無の関連

一般被害5種類のうち少なくとも一つを経験した群を、「一般被害」の「あり群」、一つも経験していない群を「なし群」とし、家族からの被害5種類のうち少なくとも一つを経験した群を、「家族からの被害」の「あり群」、一つも経験していない群を「なし群」とした場合、一般被害あり群は全体の93.8%、なし群は6.2%、家族からの被害あり群は73.6%、なし群は26.4%である。一般被害の有無の割合は統計的に男女差はないが、家族からの被害あり群は、女子における割合が男子よりも有意に高い。

一般被害の有無と家族からの被害の有無の関連を男女別に見たものが表13-1である。

表13-1 一般被害の有無と家族からの被害の有無

| | | | 家族からの被害 | | 合計 | 検定結果 |
|----|------|----|---------------|-----------------|------------------|----------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般被害 | なし | 84 (65.1) | 45 (34.9) | 129 (100.0) | $\chi^2(1)=100.374$ p=0.000** |
| | | あり | 484 (24.6) | 1,481 (75.4) | 1,965 (100.0) | |
| | 合計 | | 568 (27.1) | 1,526 (72.9) | 2,094 (100.0) | |
| 女子 | 一般被害 | なし | 8 (53.3) | 7 (46.7) | 15 (100.0) | (f) p=0.003** |
| | | あり | 37 (17.3) | 177 (82.7) | 214 (100.0) | |
| | 合計 | | 45 (19.7) | 184 (80.3) | 229 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。

4 「検定結果」欄の(f)は、フィッシャーの直接確率法によることを示す。

5 ()内は、構成比である。

検定の結果、男女ともに関連が認められた。一方の被害経験がある者は、その被害経験がない者よりも、もう一方の被害を経験している場合が有意に多く、一方の被害経験がない者は、その被害がある者よりも、もう一方の被害を経験していない場合が有意に多い。たとえば、男子では、一般被害の経験がある者のうち、75.4%は家族からの被害も経験しているが、一般被害の経験がない者は、そのうち34.9%しか家族からの被害を経験していないし、一般被害の経験がない者のうち、家族からの被害もない者は65.1%いるが、一般被害の経験がある者で、家族からの被害経験がない者は24.6%しかいない。

次に、被害の種類間の関連を更に細かく見るために、「一般・身体的暴力¹」、「一般・性的暴力²」、「家族・身体的暴力³」、「家族・性的暴力⁴」の有無について、すべての組合せでクロス表を作成し、各被害種類間の関連が有意であったかどうか見た結果が、表13-2である（各クロス表については、資料13-1を参照のこと）。

表13-2 被害種類間の関係

① 男子

| | 一般・身体的暴力 | 一般・性的暴力 | 家族・身体的暴力 | 家族・性的暴力 |
|----------|----------|---------|----------|---------|
| 一般・身体的暴力 | | ** | ** | — |
| 一般・性的暴力 | | | ** | ** |
| 家族・身体的暴力 | | | | * |
| 家族・性的暴力 | | | | |

② 女子

| | 一般・身体的暴力 | 一般・性的暴力 | 家族・身体的暴力 | 家族・性的暴力 |
|----------|----------|---------|----------|---------|
| 一般・身体的暴力 | | ** | * | — |
| 一般・性的暴力 | | | * | — |
| 家族・身体的暴力 | | | | ** |
| 家族・性的暴力 | | | | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 各セル中の記号は、被害種類間の関連の有無を示している。

「**」…1%以下の水準で、有意な関連が見られたことを示す。

「*」…5%以下の水準で、有意な関連が見られたことを示す。

「—」…統計的に有意な関連が見られなかったことを示す。

「家族・性的暴力」と「一般・身体的暴力」の間（女子は加えて「家族・性的暴力」と「一般・性的暴力」の間も）を除き、すべての被害種類間において有意な関連が認められた。関連の仕方は一貫して、一方の被害経験を有している者は、その被害経験がない者よりも、他方の被害を経験している場合が有意に多く、一方の被害経験がない者は、その被害がある者よりも、もう一方の被害を経験していない場合が有意に多いというものである。「家族・身体的暴力」は、男女ともに、すべての被害種類と関連を有している。

1 一般被害の身体的暴力①（軽度）、②（重度）の有無。少なくともどちらか一方を経験していれば「あり群」、両方なければ「なし群」とする。以下、群の作成方法は同じ。

2 一般被害の性的暴力①（接触）、②（性交）の有無。

3 家族からの身体的暴力①②の有無。

4 家族からの性的暴力①②の有無。

一般被害と家族からの被害の関連だけでなく、身体的暴力の被害と性的暴力の被害の関連もあることが明らかになったことから、単独の種類被害しか経験していない者よりも、複数の種類の被害を受けている者が多いと推測できる。しかし、関連の有無だけでは、全体として、どのような被害をいくつくらい、どのくらいの者が受けたのかという細かい中身は分からない。そこで、前述した4種類の被害において、全く経験のない者の群から、すべての種類の経験がある者の群までの全通りの組合せそれぞれについて、該当する者を計上した結果を、図13-1に示した。

男子と女子では多く受けた被害の組合せのパターンが異なる。男子が、女子と比べて有意に多かったのは、以下の二つである。

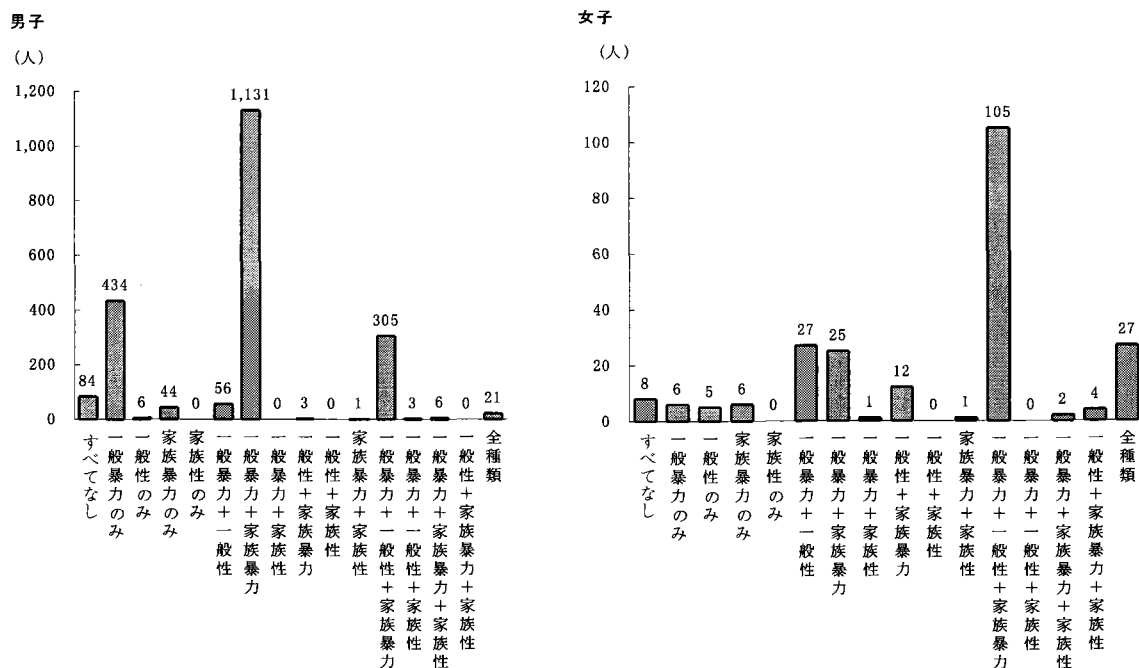
- ・「一般・身体的暴力のみ」(20.7%の男子に該当し、2番目に多い被害パターン)
- ・「一般・身体的暴力+家族・身体的暴力」(54.0%の男子に該当し、最も多い)

女子が、男子と比べて有意に多かったのは以下の七つである。

- ・「一般・性的暴力のみ」
- ・「一般・身体的暴力+一般・性的暴力」(11.8%の女子に該当し、2番目に多い)
- ・「一般・身体的暴力+家族・性的暴力」
- ・「一般・性的暴力+家族・身体的暴力」
- ・「一般・身体的暴力+一般・性的暴力+家族・身体的暴力」(45.9%の女子に該当し、最も多い)
- ・「一般・性的暴力+家族・身体的暴力+家族・性的暴力」
- ・「全種類」(11.8%の女子に該当し、2番目に多い)

男子に有意に多かった組合せは性的暴力を含んでいないが、女子に有意に多かった組合せはすべて性的暴力を含んでおり、性的暴力を含む比較可能な11の組合せのうち七つという結果である。また、「家族・性的暴力のみ」及び「一般・性的暴力+家族・性的暴力」という組合せは、男女とも一人もいなかった。

図13-1 受けた被害の種類組合せ



| | 男子 | | | 女子 | | | 合計 | |
|-----------------------------------|------------------|---------|----------|-----|---------|----------|-------|---------|
| すべてなし | 84 | (4.0) | [0.4] | 8 | (3.5) | [-0.4] | 92 | (4.0) |
| 一般・身体的暴力のみ | 434 | (20.7) | △[6.6] | 6 | (2.6) | ▼[-6.6] | 440 | (18.9) |
| 一般・性的暴力のみ | 6 | (0.3) | ▼[-4.0] | 5 | (2.2) | △[4.0] | 11 | (0.5) |
| 家族・身体的暴力のみ | 44 | (2.1) | [-0.5] | 6 | (2.6) | [0.5] | 50 | (2.2) |
| 家族・性的暴力のみ ¹ | 0 | - | | 0 | - | | 0 | - |
| 一般・身体的暴力 +一般・性的暴力 | 56 | (2.7) | ▼[-7.1] | 27 | (11.8) | △[7.1] | 83 | (3.6) |
| 一般・身体的暴力 +家族・身体的暴力 | 1,131 | (54.0) | △[12.4] | 25 | (10.9) | ▼[-12.4] | 1,156 | (49.8) |
| 一般・身体的暴力 +家族・性的暴力 | 0 | (0.0) | ▼[-3.0] | 1 | (0.4) | △[3.0] | 1 | (0.0) |
| 一般・性的暴力 +家族・身体的暴力 | 3 | (0.1) | ▼[-9.1] | 12 | (5.2) | △[9.1] | 15 | (0.6) |
| 一般・性的暴力 +家族・性的暴力 ¹ | 0 | - | | 0 | - | | 0 | - |
| 家族・身体的暴力 +家族・性的暴力 | 1 | (0.0) | [-1.9] | 1 | (0.4) | [1.9] | 2 | (0.1) |
| 一般・身体的暴力 +一般・性的暴力 +家族・身体的暴力 | 305 | (14.6) | ▼[-11.8] | 105 | (45.9) | △[11.8] | 410 | (17.6) |
| 一般・身体的暴力 +一般・性的暴力 +家族・性的暴力 | 3 | (0.1) | [0.6] | 0 | - | [-0.6] | 3 | (0.1) |
| 一般・身体的暴力 +家族・身体的暴力 +家族・性的暴力 | 6 | (0.3) | [-1.4] | 2 | (0.9) | [1.4] | 8 | (0.3) |
| 一般・性的暴力 +家族・身体的暴力 +家族・性的暴力 | 0 | - | ▼[-6.1] | 4 | (1.7) | △[6.1] | 4 | (0.2) |
| 全種類 | 21 | (1.0) | ▼[-10.9] | 27 | (11.8) | △[10.9] | 48 | (2.1) |
| 合計 | 2,094 | (100.0) | | 229 | (100.0) | | 2,323 | (100.0) |
| 検定結果 | (m) p=0.000** | | | | | | | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。

3 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、▼は、期待値より有意に少ないことを示す。

4 「¹」のついた群は、男女とも該当者がいなかったため、検定から除外している。

5 文中で使用した被害の種類は、図中のラベルとして長いため省略したものを使用している。「身体的暴力」は「暴力」に、「性的暴力」は「性」に短縮し、「・」も省略している。

6 表13-1の注2・3・5に同じ。

(2) それぞれの被害を受け始めた時期と初発非行の時期との関連

表13-3は、一般被害を受けたことがある者と家族からの被害を受けたことがある者について、被害を受け始めた時期（被害が「一度きり」の者については、その時期）及び初発非行（真犯も含む。）の時期の関連を男女別に見たものである（参考までに、第1報告には、虐待の開始時期と初発非行の時期との関連を見たものがある。171ページ表45参照）。

一般被害を受け始めた時期と初発非行の時期との関連は、男女ともに認められた。残差分析の結果、男女とも、両者が同時期⁵である場合のいくつかが有意に多かった。男子では、小学校入学前を除く三つの時期、女子では小学校入学前及び中学校卒業後である。一方、男子で、一般被害を受け始めたのが小学生の時、初発非行が中学卒業後に見られた者、一般被害を受け始めたのが中学生の時、初発非行が小学生の時に見られた者、一般被害を受け始めたのが中学卒業後、初発非行が中学生の時に見られた者は有意に少なかった。

家族からの被害との関連は、男子において認められた。残差分析の結果、小学校入学前を除く三つの時期で、両者が同時期である者が有意に多かった。一方、家族からの被害を受け始めたのが中学生の時、初発非行が小学校入学前に見られた者は有意に少なかった。女子については、男子とほぼ同様の傾向が認められたが、統計的には有意ではなかった。

表13-3 被害を受け始めた時期と初発非行時期

| ① 一般被害 | | | 初発非行時期 | | | | 合計 | 検定結果 |
|--------|--------------|-------------|-----------------------------|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|----------------|--------------------------------------|
| | | | 小学校入学前 | 小学生の時 | 中学生の時 | 中学卒業後 | | |
| 男子 | 一般被害を受け始めた時期 | 小学校入学前 | 4 (3.6) [0.8] | 35 (31.8) [0.6] | 56 (50.9) [-0.5] | 15 (13.6) [-0.3] | 110 (100.0) | $\chi^2(9)=48.460$ $p=0.000^{**}$ |
| | | 小学生の時 | 17 (2.4) [-0.2] | 242 (34.3) $\Delta[3.6]$ | 362 (51.3) [-1.3] | 84 (11.9) $\nabla[-2.6]$ | 705 (100.0) | |
| | | 中学生の時 | 22 (2.6) [0.2] | 228 (26.6) $\nabla[-2.5]$ | 494 (57.6) $\Delta[3.3]$ | 114 (13.3) [-1.6] | 858 (100.0) | |
| | | 中学卒業後 | 6 (2.1) [-0.5] | 71 (25.0) [-1.8] | 132 (46.5) $\nabla[-2.5]$ | 75 (26.4) $\Delta[6.0]$ | 284 (100.0) | |
| | 合計 | 49 (2.5) | 576 (29.4) | 1,044 (53.3) | 288 (14.7) | 1,957 (100.0) | | |
| 女子 | 一般被害を受け始めた時期 | 小学校入学前 | 1 (7.1) $\Delta[2.5]$ | 5 (35.7) [1.5] | 8 (57.1) [-0.2] | 0 - [-1.9] | 14 (100.0) | (m) $p=0.007^{**}$ |
| | | 小学生の時 | 0 - [-0.9] | 16 (27.1) [1.6] | 31 (52.5) [-1.4] | 12 (20.3) [0.4] | 59 (100.0) | |
| | | 中学生の時 | 1 (1.0) [0.0] | 19 (18.1) [-0.8] | 70 (66.7) [1.9] | 15 (14.3) [-1.7] | 105 (100.0) | |
| | | 中学卒業後 | 0 - [-0.6] | 3 (8.6) [-1.9] | 19 (54.3) [-0.8] | 13 (37.1) $\Delta[3.0]$ | 35 (100.0) | |
| | 合計 | 2 (0.9) | 43 (20.2) | 128 (60.1) | 40 (18.8) | 213 (100.0) | | |

5 同時期とはいっても、「小学生の時」とか「中学生の時」といったように、ここでいう時期自体にはかなり幅がある。その時期の中で被害と初発非行どちらが先であったかは不明である。

② 家族からの被害

| | | 初発非行時期 | | | | 合計 | 検定結果 |
|----|-----------------|-------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| | | 小学校入学前 | 小学生の時 | 中学生の時 | 中学卒業後 | | |
| 男子 | 家族からの被害を受け始めた時期 | 小学校入学前 | 16 (4.0) [1.6] | 123 (31.0) [-0.3] | 203 (51.1) [-0.1] | 55 (13.9) [-0.2] | $\chi^2(9)=29.432$ $p=0.001^{**}$ |
| | | 小学生の時 | 24 (3.0) [0.2] | 273 (33.9) $\Delta[2.0]$ | 401 (49.8) [-1.3] | 108 (13.4) [-1.0] | |
| | | 中学生の時 | 2 (0.8) $\nabla[-2.1]$ | 63 (26.3) [-1.9] | 142 (59.2) $\Delta[2.7]$ | 33 (13.8) [-0.2] | |
| | | 中学卒業後 | 1 (2.4) [-0.2] | 10 (24.4) [-1.0] | 15 (36.6) [-1.9] | 15 (36.6) $\Delta[4.2]$ | |
| | 合計 | 43 (2.9) | 469 (31.6) | 761 (51.3) | 211 (14.2) | 1,484 (100.0) | |
| 女子 | 家族からの被害を受け始めた時期 | 小学校入学前 | 1 (1.8) | 13 (22.8) | 33 (57.9) | 10 (17.5) | (m) $p=0.115$ |
| | | 小学生の時 | 0 - | 21 (26.3) | 46 (57.5) | 13 (16.3) | |
| | | 中学生の時 | 0 - | 4 (11.4) | 27 (77.1) | 4 (11.4) | |
| | | 中学卒業後 | 0 - | 0 - | 4 (50.0) | 4 (50.0) | |
| | 合計 | 1 (0.6) | 38 (21.1) | 110 (61.1) | 31 (17.2) | 180 (100.0) | |

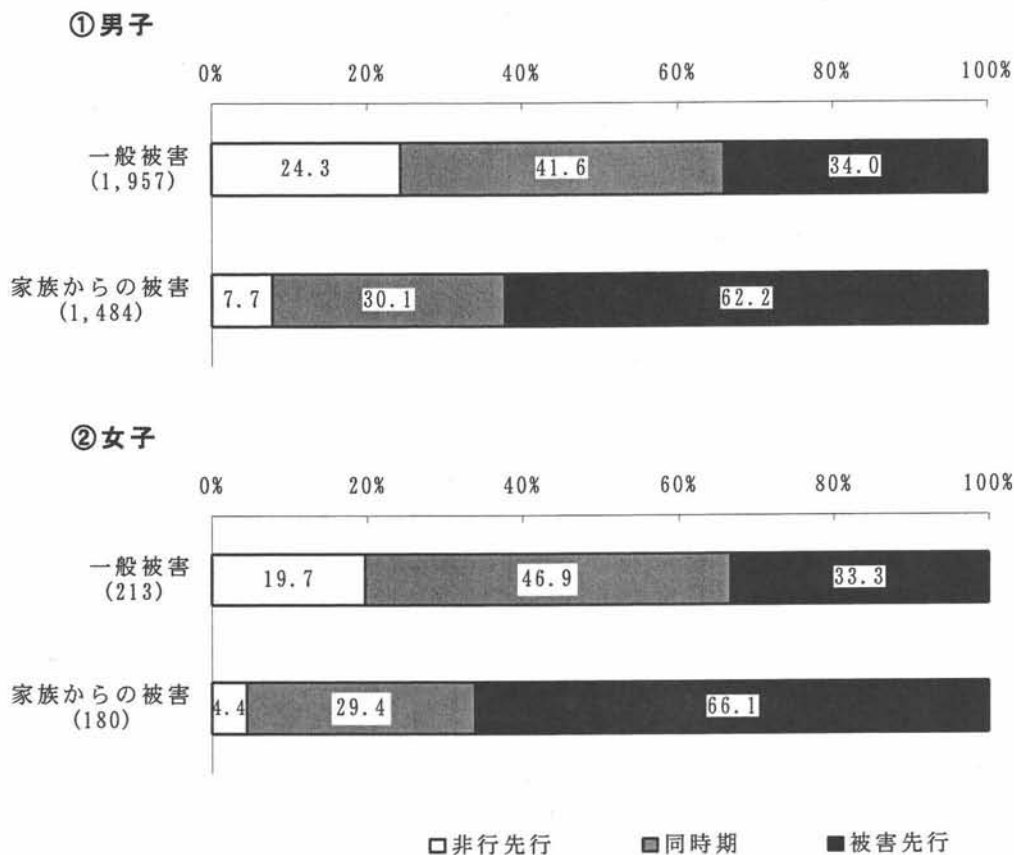
- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 表13-1の注3・5に同じ。
 4 図13-1の注2・3に同じ。

また、一般被害及び家族からの被害を受けた者についてそれぞれ、被害を受け始めた時期と初発非行の時期を比較して、初発非行の方が被害より早い「非行先行群」、同時期である「同時期群」、被害の方が初発非行より早い「被害先行群」に分け、男女別に見たものが図13-2である。

一般被害と家族からの被害とを比べた場合、男子においても女子においても、家族からの被害の方が、被害先行群が多く、非行先行群が少ないのが特徴である。男女とも家族からの被害においては、被害先行群が60%以上を占めて最も多いが、非行先行群は、10%に満たない。一般被害においては、同時期群が40%以上と最も多く、被害先行群は30%強である。

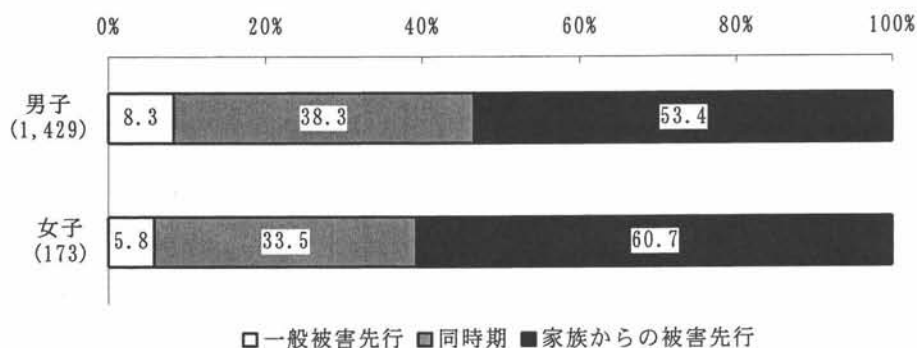
図13-3は、一般被害と家族からの被害を両方受けた経験のある者について、被害を受け始めた時期を比較したものである。男女とも家族からの被害が先行している者が最も多く、次に同時期である者が続く。

図13-2 被害の開始時期と初発非行の時期との関係



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 ()内は、実数である。

図13-3 一般被害と家族からの被害の時期の比較



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 ()内は、実数である。

(3) それぞれの被害の有無と非行性との関連

非行性とは、本人の性格や犯罪行為に対する態度、実際の反社会的な行動歴等から見た、非行に走りやすい傾向全体を表す用語であり、非行性の程度を判断するにあたっては多くの指標が考えられるが、ここでは処遇区分の「長期」、「短期」及び入院回数の「1回」、「2回以上」を使用して分析を行った。

表13-4は、一般被害の有無及び家族からの被害の有無と処遇区分との関係を、それぞれ男女別に見たものである。

全体に占める長期処遇の者が多いため、当然、性別や被害の種類にかかわらず長期処遇が多いが、統計的には、男子において、家族からの被害の有無と処遇区分との間に有意な関連が見られた。家族からの被害がない者における短期処遇の者、家族からの被害がある者における長期処遇の者がそれぞれ有意に多い。

表13-4 被害の有無と処遇区分

| ① 一般被害 | | | | | | |
|--------|------|----|-----------------|---------------|------------------|--------------------------------|
| | | | 処遇区分 | | 合計 | 検定結果 |
| | | | 長期 | 短期 | | |
| 男子 | 一般被害 | なし | 112 (86.8) | 17 (13.2) | 129 (100.0) | $\chi^2(1)=1.058$ $p=0.304$ |
| | | あり | 1,653 (83.4) | 330 (16.6) | 1,983 (100.0) | |
| | 合計 | | 1,765 (83.6) | 347 (16.4) | 2,112 (100.0) | |
| 女子 | 一般被害 | なし | 12 (80.0) | 3 (20.0) | 15 (100.0) | (f) $p=0.720$ |
| | | あり | 179 (83.6) | 35 (16.4) | 214 (100.0) | |
| | 合計 | | 191 (83.4) | 38 (16.6) | 229 (100.0) | |

| ② 家族からの被害 | | | | | | |
|-----------|---------|----|-----------------|---------------|------------------|----------------------------------|
| | | | 処遇区分 | | 合計 | 検定結果 |
| | | | 長期 | 短期 | | |
| 男子 | 家族からの被害 | なし | 456 (80.3) | 112 (19.7) | 568 (100.0) | $\chi^2(1)=6.602$ $p=0.010^*$ |
| | | あり | 1,298 (84.9) | 230 (15.1) | 1,528 (100.0) | |
| | 合計 | | 1,754 (83.7) | 342 (16.3) | 2,096 (100.0) | |
| 女子 | 家族からの被害 | なし | 37 (82.2) | 8 (17.8) | 45 (100.0) | $\chi^2(1)=0.057$ $p=0.812$ |
| | | あり | 154 (83.7) | 30 (16.3) | 184 (100.0) | |
| | 合計 | | 191 (83.4) | 38 (16.6) | 229 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「検定結果」欄の「*」は、有意水準5%以下で有意差が見られることを示す。

3 表13-1の注2・4・5に同じ。

表13-5は、一般被害の有無及び家族からの被害の有無と入院回数との関係を、それぞれ男女別に見たものである。

全体に占める入院回数1回の者が多いため、当然、性別や被害の種類にかかわらず入院回数1回が多いが、統計的には、男子において、家族からの被害の有無と入院回数との間に有意な関連が見られた。家族からの被害がない者における入院回数1回の者、家族からの被害がある者における入院回数2回以上の者がそれぞれ有意に多い。女子も、5%という基準での有意差は見られなかったが、10%水準では男子と同様の結果が得られた。

表13-5 被害の有無と入院回数

| ① 一般被害 | | | | | | |
|--------|------|----|-----------------|---------------|------------------|--------------------------------|
| | | | 入院回数 | | 合計 | 検定結果 |
| | | | 1回 | 2回以上 | | |
| 男子 | 一般被害 | なし | 104 (80.6) | 25 (19.4) | 129 (100.0) | $\chi^2(1)=0.853$ $p=0.356$ |
| | | あり | 1,529 (77.1) | 454 (22.9) | 1,983 (100.0) | |
| | 合計 | | 1,633 (77.3) | 479 (22.7) | 2,112 (100.0) | |
| 女子 | 一般被害 | なし | 15 (100.0) | 0 - | 15 (100.0) | (f) $p=0.378$ |
| | | あり | 190 (88.8) | 24 (11.2) | 214 (100.0) | |
| | 合計 | | 205 (89.5) | 24 (10.5) | 229 (100.0) | |

| ② 家族からの被害 | | | | | | |
|-----------|---------|----|-----------------|---------------|------------------|-------------------------------------|
| | | | 入院回数 | | 合計 | 検定結果 |
| | | | 1回 | 2回以上 | | |
| 男子 | 家族からの被害 | なし | 464 (81.7) | 104 (18.3) | 568 (100.0) | $\chi^2(1)=8.250$ $p=0.004^{**}$ |
| | | あり | 1,158 (75.8) | 370 (24.2) | 1,528 (100.0) | |
| | 合計 | | 1,622 (77.4) | 474 (22.6) | 2,096 (100.0) | |
| 女子 | 家族からの被害 | なし | 44 (97.8) | 1 (2.2) | 45 (100.0) | (f) $p=0.055^\dagger$ |
| | | あり | 161 (87.5) | 23 (12.5) | 184 (100.0) | |
| | 合計 | | 205 (89.5) | 24 (10.5) | 229 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。

3 表13-1の注2~6に同じ。

(4) それぞれの被害の有無と性格特性との関連

ここでは、本調査の第1報告と同様に、性格特性の指標として、MJPI(法務省式人格目録)のT得点を使用した。MJPIについては、第1報告を参照されたい(130ページ)。なお、第1報告で述べたように、MJPIの結果を男女別に考察することは困難であるため(第1報告133ページ参照)、ここでは、男女を合わせた全体の結果について述べる。なお、尺度の示す性格特性については、第1報告130ページに紹介したとおりであるが、読者の便宜のために今一度紹介する。

| 尺度名 | 尺度の示す性格特性 |
|------------------|---|
| (妥当性尺度) | |
| 虚構尺度 | テストの結果を過度に良く見せようとし、そのために実行不可能なことでも行うと反応する傾向 |
| 偏向尺度 | テストを受ける構え、またはものの考え方や感じ方が著しく偏っている傾向 |
| 自我防衛尺度 (臨床尺度) | 自分を守るために自分の弱点を隠し、良く見せようとする傾向 |
| 心気症傾向 | 自分の心身の変化に敏感であったり、些細なことにこだわり元気をなくするというような神経質、無気力、心気症的な傾向 |
| 自信欠如傾向 | 他人の評価を気にし、自分の能力や行動に自信を持ってない傾向 |
| 抑うつ傾向 | 些細なことに気が沈み、消極的、悲観的、絶望的になり、暗い気分が続く傾向 |
| 不安定傾向 | 周囲の状況に関係なく気分が変化したり、些細な刺激で行動が変わりやすい傾向 |
| 爆発傾向 | 短気で怒りや不満を抱きやすく、また攻撃的に振舞いやすい傾向 |
| 自己顕示傾向 | 自己中心的で支配欲が強かったり、他人から嫌われまいとして自分を良く見せようとする傾向 |
| 過活動傾向 | 刺激をすぐ行動に移したり、気軽で即効的に振舞ったりする傾向 |
| 軽躁傾向 | おおむねほがらかで人付き合いを好むというような楽天的な傾向 |
| 従属傾向 | 他からの働きかけに動かされやすく、自主性を欠く弱い依存的な傾向 |
| 偏狭傾向 | 自己中心的で社会に対する不平不満を持ち、被害感、不信感などが強い傾向 |

表13-6は、一般被害の「あり群」と「なし群」のMJPIの平均値の差及び家族からの被害の「あり群」と「なし群」のMJPIの平均値の差をT検定により見たものである。

表13-6 被害の有無によるMJPIのT得点の差

| | 一般被害; 「なし」=142, 「あり」=2,193 | | | 家族からの被害; 「なし」=611, 「あり」=1,708 | | |
|------|----------------------------------|-------|-----------|-------------------------------------|-------|-----------|
| | | 平均値 | 検定結果 | | 平均値 | 検定結果 |
| 虚構 | なし | 52.55 | p=0.003** | なし | 51.61 | p=0.000** |
| | あり | 50.08 | | あり | 49.74 | |
| 偏向 | なし | 50.28 | p=0.000** | なし | 47.38 | p=0.772 |
| | あり | 47.25 | | あり | 47.49 | |
| 自我防衛 | なし | 50.24 | p=0.529 | なし | 51.50 | p=0.000** |
| | あり | 49.73 | | あり | 49.14 | |
| 心気症 | なし | 52.95 | p=0.609 | なし | 52.22 | p=0.001** |
| | あり | 53.39 | | あり | 53.81 | |
| 自信欠如 | なし | 49.64 | p=0.995 | なし | 48.78 | p=0.011* |
| | あり | 49.65 | | あり | 49.95 | |
| 抑うつ | なし | 50.61 | p=0.408 | なし | 49.03 | p=0.004** |
| | あり | 49.89 | | あり | 50.29 | |
| 不安定 | なし | 49.61 | p=0.813 | なし | 48.34 | p=0.002** |
| | あり | 49.40 | | あり | 49.84 | |
| 爆発 | なし | 50.67 | p=0.678 | なし | 49.26 | p=0.001** |
| | あり | 50.32 | | あり | 50.75 | |
| 自己顕示 | なし | 49.34 | p=0.004* | なし | 50.12 | p=0.000** |
| | あり | 51.78 | | あり | 52.16 | |
| 過活動 | なし | 53.07 | p=0.312 | なし | 53.39 | p=0.186 |
| | あり | 53.86 | | あり | 53.95 | |
| 軽躁 | なし | 50.32 | p=0.014* | なし | 51.68 | p=0.139 |
| | あり | 52.24 | | あり | 52.31 | |
| 従属 | なし | 49.49 | p=0.224 | なし | 49.97 | p=0.150 |
| | あり | 50.50 | | あり | 50.62 | |
| 偏狭 | なし | 51.30 | p=0.955 | なし | 49.82 | p=0.000** |
| | あり | 51.25 | | あり | 51.76 | |

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 検査を実施出来なかった者及び無回答の者を除く。
 3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で、「*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。

一般被害においても、家族からの被害においても、被害の有無によって、MJPIの平均値に有意差が見られた。一般被害においては、あり群がなし群と比べ、妥当性尺度で、「虚構」及び「偏向」が低く、臨床尺度では、「自己顕示」及び「軽躁」が有意に高い。家族からの被害においては、あり群がなし群と比べ、妥当性尺度で、「虚構」及び「自我防衛」が低く、臨床尺度では、「心気症」、「自信欠如」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が高い。

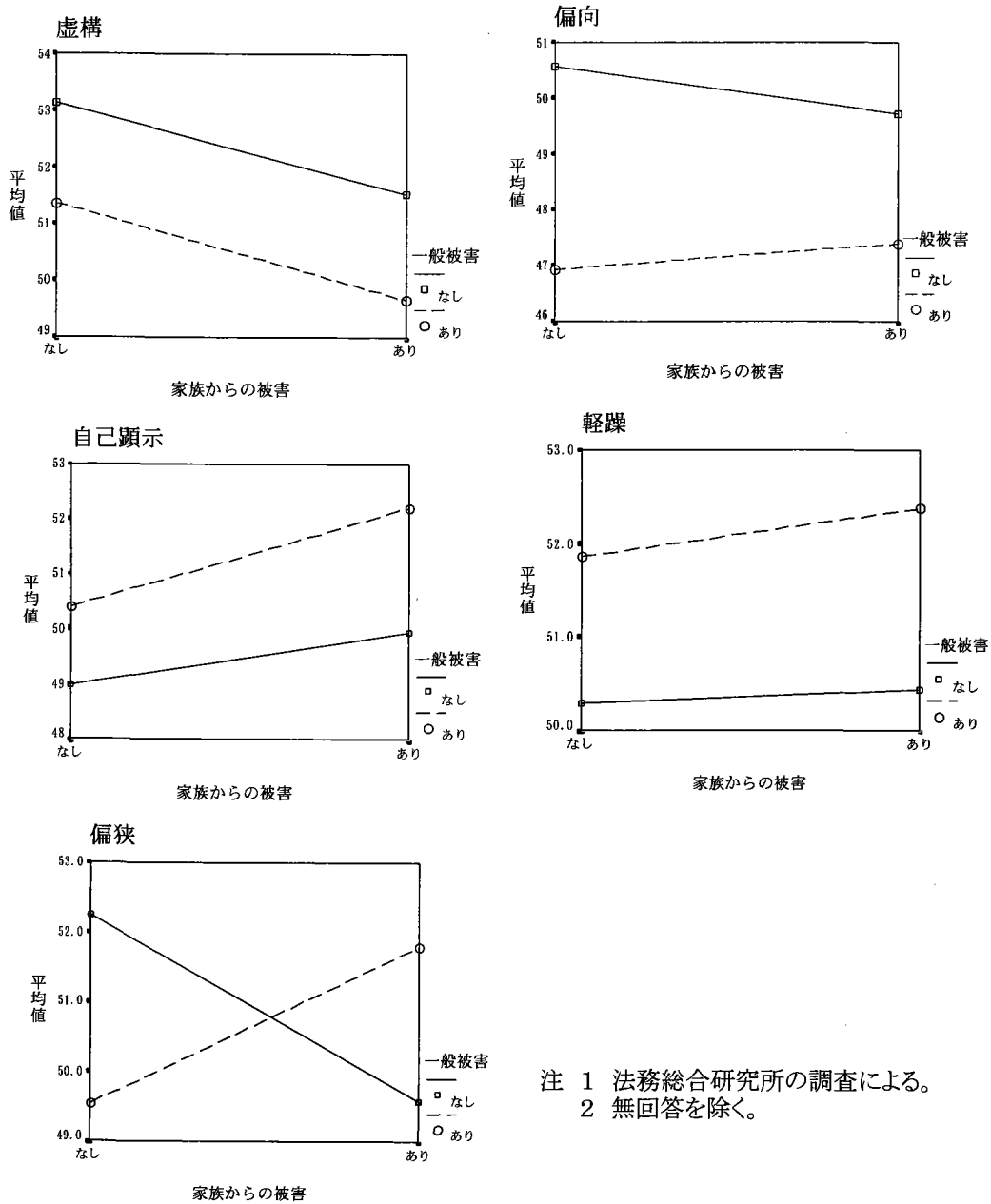
表13-6の結果から、一般被害の有無と家族からの被害の有無は、それぞれ性格特性との関連が同じパターンでないということが分かった。このことから、一般被害と家族からの被害では、その効果が異なる可能性が考えられる。そこで、一般被害と家族からの被害を別々の要因とした二元配置の分散分析により、それぞれの主効果と交互作用⁶について検証した。なお、MJPIの得点は第1報告に述べたとおり性差が大きいので(132ページ)、性別を共変量としている。

その結果、妥当尺度においては、「虚構」において5%以下の水準で、「偏向」において1%以下の水準で、臨床尺度では、「自己顕示」と「軽躁」において、それぞれ5%以下の水準で一般被害の主効果が認められた(統計量の詳細については、資料13-2を参照のこと)。また、「偏狭」においては、1%以下の水準で、一般被害と家族からの被害の交互作用が認められた。図13-4は、要因の効果が認められた尺度の、MJPIのT得点の平均値を示したものである。

「虚構」及び「偏向」は、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害なし群が、一般被害あり群よりも平均値が高い。グラフは平行である。「自己顕示」及び「軽躁」は、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害あり群は、一般被害なし群よりも平均値が高い。グラフは平行である。しかし、「偏狭」を見ると、一般被害あり群は、家族からの被害がある場合、一般被害なし群よりも平均値が高いが、家族からの被害がない場合は、一般被害のあり群の平均値はなし群よりも低く、グラフが交差する形となっている。このグラフでは、一般被害も家族からの被害も両方経験している群の方が、家族からの被害のみ経験している群より平均値が高く、被害経験が両方ない群の方が、一般被害のみ経験している群より平均値が高いということになる。

6 要因の主効果があるというのは、その要因により、従属変数が有意に変動するということである。たとえば、ここで一般被害の主効果がある、というのは、家族からの被害の有無にかかわらず、一般被害があれば、従属変数であるMJPIの得点が高く、一般被害がなければ、得点が低いというようなことを指す。交互作用というのは、要因が組み合わさることにより、単独の要因とは異なる結果が見られることをいう。ここでいえば、一般被害の要因が「あり」でも、家族からの被害の要因が「なし」の場合、MJPIの得点が下がるというようなことである。

図13-4 一般被害と家族からの被害の2要因で見る MJPI の平均値 (要因の効果が認められたもの)



注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答を除く。

そこで、「一般被害なし・家族からの被害なし」, 「一般被害なし・家族からの被害あり」, 「一般被害あり・家族からの被害なし」, 「一般被害あり・家族からの被害あり」の4群に、群間に差が見られるかどうかを調べるために、一元配置の分散分析を行った (以下、順に「両方なし群」, 「家族からの被害のみあり群」, 「一般被害のみあり群」, 「両方あり群」という)。分散分析で有意差が見られた尺度において、平均値の差の検定を多重比較 (ボンフェローニ法) で行った結果を示したものが表13-7である。

表13-7 多重比較により T 得点の平均の差が有意となった群間及び平均値の大小

| | |
|------|---|
| | N; 「両方なし」=90 「家族からの被害のみあり」=52 「一般被害のみあり」=521 「両方あり」=1,654 |
| 虚構 | 両方なし・一般被害のみあり > 両方あり |
| 偏向 | 両方なし > 一般被害のみあり・両方あり |
| 自我防衛 | 一般被害のみあり > 両方あり |
| 心気症 | 一般被害のみあり < 両方あり |
| 自信欠如 | |
| 抑うつ | 一般被害のみあり < 両方あり |
| 不安定 | 一般被害のみあり < 両方あり |
| 爆発 | 一般被害のみあり < 両方あり |
| 自己顕示 | 両方なし・一般被害のみあり < 両方あり |
| 過活動 | |
| 軽躁 | |
| 従属 | |
| 偏狭 | 一般被害のみあり < 両方あり |

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答を除く。
 3 5%水準で有意差が認められた群の差の大小を不等号で示している。「・」で結群の間には有意差がないが、不等号ではさまれた群とはそれぞれが有意差を持つ。たとえば、「両方なし・一般被害のみあり < 両方あり」は、「両方なし群は両方あり群と有意差があり、一般被害のみあり群も両方あり群と有意差があるが、両方なし群と一般被害のみあり群の間には有意差がない。」と読む。
 4 統計量の詳細については資料13-3を参照のこと。

すべての妥当性尺度と、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」の臨床尺度で群間の差が認められた。その多くは、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間の差である。臨床尺度においては一貫して、「両方あり」群が「一般被害のみあり群」より高い。図13-4で交互作用の見られた「偏狭」のグラフを、表13-7で用いた4群で記述すると、「両方あり群は、家族からの被害のみあり群より平均値が高く、両方なし群は、一般被害のみあり群より平均値が高い」となる。ここで平均値が高いのは、両方あり群と両方なし群であり、平均値が低いのは、家族からの被害のみあり群と一般被害のみあり群である。この状態で、表13-7において両方あり群と一般被害のみあり群との間に群間の差が見られたのは、両群に該当する人数が偏って多いためだと考えられる。有意な交互作用は認められないものの、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間の差が認められた他の尺度も、グラフは交差しているものが多く（資料13-2参照）、群間の差はこれを反映したものと考えられる。

そして、家族からの被害の主効果が認められなかったことを考慮すると（主効果があれば、それにより差が説明できる）、表13-6で見られた、家族からの被害の有無によるMJPIの平均値の差は、家族からの被害あり群の約97%が「両方あり群」で、家族からの被害なし群の約85%が「一般被害のみあり群」であるため、生じた可能性が高い。

一方、表13-6で見られた、一般被害の有無による MJPI の平均値の差は、二元配置分散分析の結果認められた、一般被害の主効果を反映しているといえる。表13-7で、一部両方なし群と両方あり群等との間に群間の差が認められるのも一般被害の主効果であり、両方なし群対両方あり群の中に存在する、一般被害なし群対一般被害あり群の関係を反映したものであろう。

以上のように、各分析で見られる差は説明できるものの、表13-7で、「一般被害のみあり群」と「両方あり群」との間に有意差が最も多く認められた点については、その背景を探る必要があり、更に分析を進める。

3 「両方なし群」、「家族からの被害のみあり群」、「一般被害のみあり群」、「両方あり群」、各群の特徴

(1) 4群の比較結果

2の(4)の分析結果から、対象者を、一般被害の有無のみの、あるいは家族からの被害の有無のみの視点で検討することは適当でないことがうかがえる。つまり、一般被害がある者の特徴はこうである、家族からの被害がある者の特徴はこうである、とは一概にいえず、一般被害と家族からの被害の組合せにより特徴が変わりうるということである(特に主効果の認められなかった家族からの被害に関しては)。一般被害と家族からの被害の交互作用を考察するためには、「両方なし群」、「家族からの被害のみあり群」、「一般被害のみあり群」、「両方あり群」の4群それぞれの特徴を明らかにすることが必要である。そのため、この4群(以下「一般・家族有無4群」という。)と対象者の属性にかかわる変数とで多くのクロス表を作成し、 χ^2 検定を行った。表13-8は、一般・家族有無4群の内訳を男女別に示したものである。男女差は5%以下の有意水準では有意と認められなかったが、有意な傾向は見られた。一般被害のみあり群は男子が多くて女子が少なく、両方あり群は男子が少なくて女子が多い傾向がある。この表から分かるように、女子は両方なし群と家族からの被害のみあり群がそれぞれ10人に満たず、多くのカテゴリを持つ変数における分析が難しいため、以下の分析は男女合わせた全体で行う。ただし、解釈にあ

表13-8 一般・家族有無4群の内訳

| | 男子 | 女子 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|------------------------------------|---------------------------------|------------------|--|
| 両方なし | 84 (4.0) [0.4] | 8 (3.5) [-0.4] | 92 (4.0) | $\chi^2(3)=$ 6.601 $p=0.086^{\dagger}$ |
| 家族からの被害のみあり | 45 (2.1) [-0.9] | 7 (3.1) [0.9] | 52 (2.2) | |
| 一般被害のみあり | 484 (23.1) Δ [2.4] | 37 (16.2) ∇ [-2.4] | 521 (22.4) | |
| 両方あり | 1,481 (70.7) ∇ [-2.1] | 177 (77.3) Δ [2.1] | 1,658 (71.4) | |
| 合計 | 2,094 (100.0) | 229 (100.0) | 2,323 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 表13-1の注5に同じ。

4 図13-1の注3に同じ。

5 表13-5の注2に同じ。

たつては、データが女子を含んだ全体のデータであると同時に、全体に占める男子の比率が高いため、主に男子の傾向を反映しているであろうことに留意する必要がある。

一般・家族有無4群とのクロス表を作成し、 χ^2 検定を実施した変数は表13-9のとおりである。

表13-9 一般・家族有無4群とのクロス表を作成した変数

| |
|---|
| 1 本人の属性にかかわる変数 |
| ・ IQ<以下に分類>(70未満, 70台, 80台, 90台, 100以上) |
| ・ 教育歴(中学在学, 中学卒業, 高校在学, 高校中退, 高校卒業, 専修・専門学校在学, 専修・専門学校中退, 専修・専門学校卒業, その他) |
| ・ 入院時の学職別(生徒・学生, 無職, 就職中) |
| 2 家族にかかわる変数 |
| ・ 家族構成(実父母, 実父, 実母, 実父義母, 義父実母, 養父母, その他) |
| ・ きょうだい数<以下に分類>(0人, 1人, 2人, 3人以上) |
| ・ きょうだい順位<以下に分類>(一人っ子, きょうだいありの第1子, きょうだいありの第2子以降) |
| ・ 保護者の養育態度<重複回答。父母それぞれに回答>(普通, 放任, 拒否, 厳格, 過干渉, 期待過剰, 溺愛) |
| ・ 家庭の経済状況(生活保護受給, 貧困, 普通, 富裕) |
| ・ 家族の負因<あり, なしで重複回答。実父, 義父, 実母, 義母, きょうだいそれぞれに回答>(犯罪・非行, 酒乱・アル中, 薬物使用) |
| ・ 実父母離婚歴(あり, なし) |
| 3 問題行動歴にかかわる変数 |
| ・ 初発非行時期(小学校入学前, 小学生時, 中学生時, 中卒以後) |
| ・ 薬物使用歴<あり, なしで重複回答>(シンナー, 覚せい剤) |
| ・ 反社会集団加入歴<あり, なしで重複回答>(暴走族, 暴力団) |
| ・ 児童相談所係属, 施設入所歴<あり, なしで重複回答>(児童相談所, 養護施設, 児童自立支援施設) |
| ・ 自殺企図歴(あり, なし) |
| ・ 自傷痕(あり, なし) |
| ・ 検挙歴<あり, なしで重複回答>(殺人・強盗, 傷害・暴行, 窃盗, 恐喝, 強姦・強制わいせつ, 毒物及び劇物取締法違反, 覚せい剤取締法違反, 道路交通法違反) |
| 4 今回入院にかかわる変数 |
| ・ 本件非行名<以下に分類。重複あり>(殺人, 強盗, 傷害, 窃盗, 恐喝, 覚せい剤取締法違反, 毒物及び劇物取締法違反, 道路交通法違反, 強姦・強制わいせつ・準強姦, 虞犯) |
| ・ 本件非行種類<以下に分類。重複あり>(凶悪犯, 粗暴犯, 財産犯, 薬物事犯, 性事犯, 交通事犯) |
| ・ 少年院種別(初等, 中等, 特別, 医療) |
| ・ 処遇課程分類級<以下に分類>(E, V, S, O, G1, G2, G3, H1, H2, M) |
| ・ 処遇区分(短期, 長期) |
| ・ 入院度数(今回初回, 2回以上) |

注 1 ()内は、変数のカテゴリを示す。ただし、「重複回答」、「重複あり」と記述している場合は、カテゴリが「あり, なし」で、()内が変数である。

2 処遇課程分類級は、多くの分類記号を併記している場合(H1E1など)、基本的には左にある記号ほど重要性が高いとみなして分類したが、P級(身体疾患, 身体障害)については、他の記号を優先している。また、H1(G3)及びH2(G3)ではG3を、E1G1, E1H2では、それぞれG1, H2を採用している。

3 E;義務教育及び高校教育を必要とする者, V;職業訓練を必要とする者及び職業上の意識, 知識, 技能等を高めるための職業指導を必要とする者, S;一般短期処遇(収容期間おおむね6か月以内)に該当する者, O;特修短期処遇(収容期間おおむね4か月以内)に該当する者, G1;著しい性格の偏りがあり, 反社会的な行動傾向が顕著であるため, 治療的な指導及び心身の訓練を特に必要とする者, G2;外国人で, 日本人と異なる処遇を必要とする者, G3;非行の重大性等により, 少年の持つ問題性が極めて複雑・深刻であるため, その矯正と社会復帰を図る上で特別の処遇を必要とする者, H1;知的障害者(IQおおむね69以下の者)であつて専門的医療措置を必要とする心身に著しい故障のない者及び知的障害者に対する処遇に準じた処遇を必要とする者, H2;情緒的未成熟等により非社会的な形の社会的不適応が著しいため専門的な治療教育を必要とする者, M;精神病者及び精神病質者及びこれらの疑いのある者

これらの変数について、 χ^2 検定とその後の残差分析により、各群について、他の群に比べて有意に多い又は有意に少ないとされた変数について列挙した結果が表13-10である（詳細な統計量等については、資料13-4参照）。表13-10には、表13-7で示した性格特性の分析結果も加えておく。ここに列挙された内容が、各群の特徴といえる。

表13-10 残差分析の結果から見る、各群の特徴

① 両方なし群(92人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多く、IQ100以上の者が少ない
- ・ MJPIの「虚構」が両方あり群より高く、「偏向」が両方あり群と一般被害のみあり群より高く、「自己顕示」が両方あり群より低い
- ・ 中学在学中の者が多い傾向があり、専修学校等在学中の者が多い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ きょうだいが3人以上いる者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件が傷害である者が少ない傾向があり、窃盗である者が多い
- ・ 本件が粗暴犯である者が少ない
- ・ 初等少年院在院者が多い傾向があり、中等少年院在院者が少ない傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がE, G3, H1, H2である者が多く、Vである者が少ない

② 家族からの被害のみあり群(52人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が多く、IQ100以上の者が少ない
- ・ MJPIの「偏向」が一般被害のみあり群より高い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 親の負因がある者が多い
- ・ 実父に犯罪・非行歴のある者が多い
- ・ きょうだいに薬物使用歴がある者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い
- ・ 児童相談所係属歴を持つ者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件が粗暴犯である者が少ない
- ・ 医療少年院在院者である者が多い傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がH1, H2である者が多い

③ 一般被害のみあり群(521人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が多い
- ・ MJPIの「虚構」と「自我防衛」が両方あり群より高く、「偏向」が両方なし群より低く、家族からの被害のみあり群より低い傾向があり、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が両方あり群より低く、「自信欠如」が両方あり群より低い傾向がある
- ・ 高校在学中の者と高卒者が多い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「普通」である者が多い傾向があり、「溺愛」である者が多く、「拒否」である者が少なく、「厳格」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が少ない傾向があり、「放任」である者が少ない傾向があり、「溺愛」である者が多い傾向がある
- ・ きょうだいが3人以上いる者が少ない
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴のある者が少ない

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が、中学生の時である者が多く、小学校入学以前の者や小学生時の者が少ない
- ・ シンナー使用歴を持つ者が少ない
- ・ 児童相談所係属歴、養護施設入所歴、児童自立支援施設入所歴を持つ者が少ない
- ・ 自殺企図歴を持つ者が少ない傾向がある
- ・ 窃盗での検挙歴を持つ者が少なく、毒物及び劇物取締法違反での検挙歴を持つ者が少ない傾向がある

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が窃盗である者が少なく、虞犯が少ない傾向がある
- ・ 本件が財産犯である者が少ない
- ・ 初等少年院在院者が少ない傾向があり、中等少年院在院者が多い傾向がある
- ・ 処遇課程の分類級がS・O・G2である者が多く、E・G1である者が少ない
- ・ 短期処遇課程の者が多く、長期処遇課程の者が少ない
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が多く、2回目以上の者が少ない

④ 両方あり群(1,658人)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が少ない
- ・ MJPIの「虚構」が両方なし群と一般被害のみあり群より低く、「自我防衛」が一般被害のみあり群より低く、「偏向」が両方なし群より低く、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」、「偏狭」が一般被害のみあり群より高く、「自信欠如」が一般被害のみあり群より高い傾向がある
- ・ 高卒者が少ない傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「拒否」である者が多く、「厳格」である者が多く、「普通」である者が少ない傾向があり、「溺愛」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が多い傾向がある

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が、小学校入学以前の者や小学生時の者が多く、中卒以後の者が少ない
- ・ シンナー使用歴を持つ者が多い
- ・ 児童相談所係属歴、養護施設入所歴、児童自立支援施設入所歴を持つ者が多い
- ・ 自殺企図歴を持つ者が多い傾向がある
- ・ 窃盗での検挙歴を持つ者が多く、毒物及び劇物取締法違反での検挙歴を持つ者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が虞犯である者が多い傾向がある
- ・ 本件が財産犯である者が多い
- ・ 処遇課程の分類級がG1である者が多く、O・G2・G3・H1である者が少ない
- ・ 長期処遇課程の者が多く、短期処遇課程の者が少ない
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が少なく、2回目以上の者が多い

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表中「多い」「少ない」と表現しているものは、5%以下の水準で有意であったものであり、「傾向がある」と表現しているのは、10%以下の水準での有意傾向が認められたものである。

表13-10を見ると、一般被害のみあり群と両方あり群がかなり対照的な2群であることが分かる。すなわち、本人の属性にかかわる変数から今回入院にかかわる変数までのほとんどすべてにおいて、一般被害のみあり群で多いとされたものは両方あり群で少なく、両方あり群で多いとされたものは一般被害のみあり群で少ない。たとえば、一般被害のみあり群では、父親の態度で「拒否」、「厳格」は少ないが、両方あり群では多いし、母親の態度の「拒否」も同様である。一般被害のみあり群では、初発非行時期のが小学校入学以前や小学生時の者は少ないが、両方あり群では多い。一般被害のみあり群は、児童相談所係属歴や施設入所歴を持つ者は少ないが、両方あり群は多い。また、一般被害のみあり群は短期処遇課程の者が多く、長期処遇課程の者が少ないが、両方あり群は逆である。

この2群と比べると、両方なし群と家族からの被害のみあり群は、能力が低いという点や非社会性の問題がある（分類級 H₂が多いことからうかがえる。）という資質面での共通点はあるが、家庭の状況に違いがある。

この各群の特徴が、性格特性の分析で見られた、一般被害と家族からの被害の交互作用（一般被害の効果は、家族からの被害を伴うか伴わないかで異なる。あるいは、家族からの被害の効果は、一般被害

を伴うか伴わないかで異なる。)の背景にあると考えられる。

(2) 各群のイメージ

表13-10に示された各群の特徴から、その全体的なイメージを以下のようにまとめてみた。もちろん、各群に該当する者全員がこうした特徴を持っているわけではないが、各群の違いをおおまかにとらえる上で参考とされたい。

ア 両方なし群

知的能力が平均よりかなり低い。年齢が低くて学校に通っていた者が多い。ものの見方が偏っている傾向がある。粗暴な行動歴は少なく、本件が窃盗である者が多い。能力的な面や非社会性など、本人の資質的な問題が大きく、特別な処遇を必要とする。家族の問題は目立たないが、資質の問題が大きいタイプといえる。

イ 家族からの被害のみあり群

知的能力が平均よりかなり低い。親やきょうだいに犯罪歴や薬物使用歴などの負因があり、児童相談所に係属した経歴を持つが、本人の問題行動が見られるようになったのは中卒以後と遅い。少年院では、知的障害者や情緒障害のある者として処遇されることが多い。家庭の問題が大きく、本人の問題も大きい。中学校に行っている間は非行としての問題はあまり目立たなかったタイプである。

ウ 一般被害のみあり群

知的能力は平均と比べてやや低いが、高校在学中の者や高卒者が他と比べて多い。両方あり群と比べると神経質さはあまりない。両親の態度はあまり問題がないか、やや甘い傾向がある。非行は中学生時から見られ始める。本件や検挙歴において窃盗が少ない。非行性の程度は比較的軽く、短期処遇を選択される者が多い。少年院への入出院を繰り返す者も少年院在院者全体の割合に比して少ない。思春期以降に問題を起こし始めて、短期間に問題行動を頻発するが、一過性とみなされることの多いタイプである。

エ 両方あり群

知的能力が低い者は多くないが、高卒者は少ない。一般被害のみあり群と比べると神経質な傾向がある。両親の態度に拒否的傾向が認められる。早期から問題行動を繰り返して各機関がかかわっているが、非行が進んできており、少年院では長期処遇が選択される。少年院への入出院を繰り返す者も少年院在院者全体の割合に比して多い。いわば早発型で非行の進んだタイプである。

(3) 被虐待経験との関係

ア 被虐待経験と一般・家族有無4群との関係

第1報告においては、家族から被害の実態と、経験なし群⁷、家族被害経験のみ群⁸、被虐待経験あり群⁹の特徴の差を中心に分析した（一部、被虐待経験あり群と被虐待経験なし群¹⁰との比較）。ここでは、少年院在院者の被害経験全体の中の被虐待経験の位置付けを試みる。なお、「家族被害経験のみ群」は、この項で述べてきた「家族からの被害のみあり群」と混同しやすい群名であるため、便宜上ここでは、「非虐待家族被害群」という。

一般・家族有無4群の中における被虐待経験あり群及び非虐待家族被害群の位置を図13-5に示す。

図13-5 一般・被害有無4群の中の被虐待群・非虐待群の位置

| | |
|-------------|----------|
| 両方なし | |
| 一般被害のみあり | |
| 家族からの被害のみあり | |
| 非虐待家族被害群 | 被虐待経験あり群 |
| 両方あり | |
| 非虐待家族被害群 | 被虐待経験あり群 |

非虐待家族被害群と被虐待経験あり群は、一般・家族有無4群の家族からの被害のみあり群と両方あり群のどちらにも含まれる。表13-11は、被虐待経験あり群・非虐待家族被害群と、家族からの被害のみあり群・両方あり群との関係を見たものである（両方なし群と一般被害のみあり群は、当然ながら該当者がいないため分析には含まれない）。

全体として、家族からの被害を受けた経験のある者の約70%が被虐待経験あり群であり、残りが非虐待家族被害群であった。逆から見ると、男女とも、被虐待経験あり群の95%以上が両方あり群で、残りが家族からの被害のみあり群であった。非虐待家族被害群の内訳もほぼ同じである。

χ^2 検定で有意な関連は認められなかったため、家族から被害を受けている者のうちの、被虐待経験者の割合は、一般被害の経験の有無とは関係ないことが分かった。家族からの被害を受けている者のほとんどが両方あり群で、家族からの被害を受けていない者のほとんどが一般被害のみあり群である(85.0%)ことを考えると、第1報告で得られた、家族からの被害なし群と被虐待経験あり群の差は、表13-10で挙げた一般被害のみあり群と両方あり群の特徴を反映していると考えられる。

7 家族からの被害をまったく受けたことのない者。一般・家族有無4群では、両方なし群と一般被害のみあり群の合計に当たる。

8 家族からの被害を受けたことはあるが、1回限りであったり、加害者が親と祖父母以外だけであったりする者。一般・家族有無4群では、家族からの被害のみあり群と両方あり群それぞれの一部である。

9 親や祖父母から繰り返し被害を受けた経験のある者。一般・家族有無4群では、家族からの被害のみあり群と両方あり群それぞれの一部である。

10 親や祖父母から繰り返し被害を受けた経験のない者全体。一般・家族有無4群では、両方なし群・一般被害のみあり群全部と、家族からの被害のみあり群・両方あり群中、それぞれの家族被害経験のみあり群の合計に当たる。

表13-11 一般・家族有無4群と虐待等の関係

| | | 非虐待 家族被害群 | 被虐待経験 あり群 | 合計 | 検定結果 |
|----|--------------|--------------------------|----------------------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 男子 | 家族からの被害のみあり群 | 15 (34.9) <3.3> | 28 (65.1) <2.8> | 43 (100.0) <2.9> | $\chi^2(1)=0.299$ $p=0.584$ |
| | 両方あり群 | 440 (31.0) <96.7> | 981 (69.0) <97.2> | 1,421 (100.0) <97.1> | |
| | 合計 | 455 (31.1) <100.0> | 1,009 (68.9) <100.0> | 1,464 (100.0) <100.0> | |
| 女子 | 家族からの被害のみあり群 | 1 (14.3) <2.0> | 6 (85.7) <4.8> | 7 (100.0) <4.0> | (f) $p=0.675$ |
| | 両方あり群 | 48 (28.7) <98.0> | 119 (71.3) <95.2> | 167 (100.0) <96.0> | |
| | 合計 | 49 (28.2) <100.0> | 125 (71.8) <100.0> | 174 (100.0) <100.0> | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 ()内は、「家族からの被害のみあり群」及び「両方あり群」の構成比であり、
< >内は、「非虐待家族被害群」及び「被虐待経験あり群」の構成比である。

3 表13-1の注2・4に同じ。

イ 被虐待経験と初発非行及び一般被害・家族からの被害の時期的前後関係

図13-6は、非虐待家族被害群及び被虐待経験あり群における、家族からの被害(被虐待経験あり群においては虐待)の開始時期と、初発非行の時期との前後関係を、それぞれ男女別に見たものである。

男子は、非虐待家族被害群・被虐待経験あり群ともに、被害が先行している者が最も多く、同時期、初発非行先行の順であるが、被虐待経験あり群で被害が先行している者が70%近くであるのに対し、非虐待家族被害群では50%に満たない。女子は、非虐待家族被害群で、同時期である者が最も多く、被虐待経験あり群では、被害が先行している者が最も多かった。

χ^2 検定の結果、男女ともに有意な関連が認められた。残差分析の結果、男子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、虐待を初発非行より先に受け始めた者が有意に多く、同時期や初発非行が先であった者が有意に少なかった。また、女子の被虐待経験あり群は、虐待を初発非行より先に受け始めた者が有意に多く、同時期であった者が有意に少なかった。

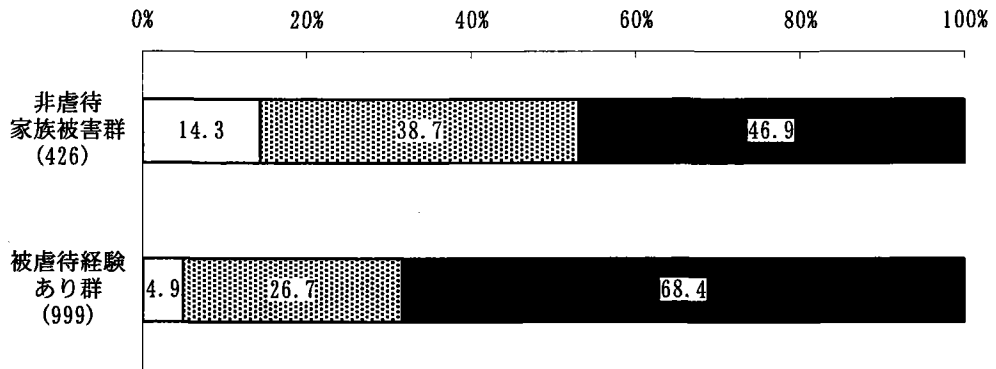
図13-7は、非虐待家族被害群及び被虐待経験あり群のうち、一般被害と家族からの被害の両方を受けている者について、一般被害と家族からの被害の前後関係を、それぞれ男女別に見たものである。

被虐待経験あり群においては、男女とも、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が60%前後と最も多く、その逆は5%程度と最も少ない。非虐待家族被害群は、被虐待経験あり群よりも、一般被害を先に受け始めている者や同時期である者の割合が多くなっている。

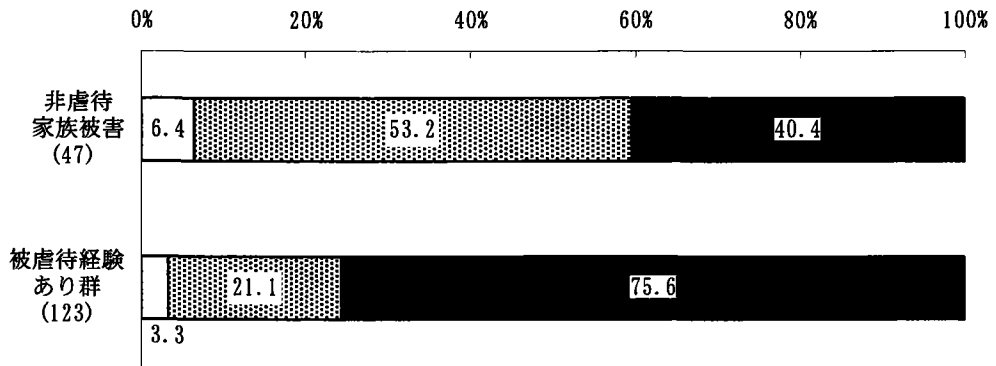
χ^2 検定の結果、男子において有意差が認められ、残差分析の結果、被虐待経験あり群は、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が有意に多く、同時期である者と一般被害が家族からの被害より先である者が有意に少なかった。

図13-6 初発非行と被虐待経験等の前後関係

①男子



②女子



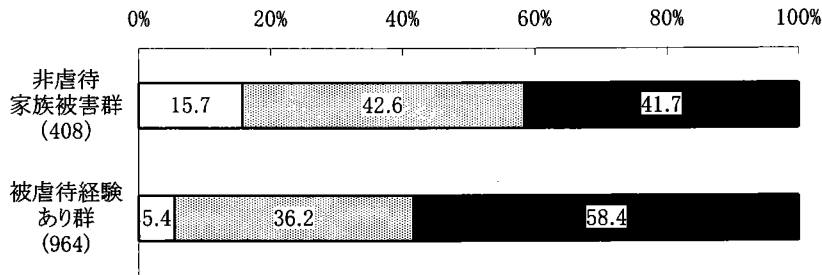
□ 非行先行 ▨ 同時期 ■ 家族からの被害先行

| | | 初発非行と家族からの被害の前後関係 | | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------|--|
| | | 初発非行先行 | 同時期 | 家族からの被害先行 | | |
| 男子 | 非虐待家族被害群 | 61 (14.3) △[6.1] | 165 (38.7) △[4.5] | 200 (46.9) ▼[-7.6] | 426 (100.0) | χ ² (2)=70.602 p=0.000** |
| | 被虐待経験あり群 | 49 (4.9) ▼[-6.1] | 267 (26.7) ▼[-4.5] | 683 (68.4) △[7.6] | 999 (100.0) | |
| | 合計 | 110 (7.7) | 432 (30.3) | 883 (62.0) | 1,425 (100.0) | |
| 女子 | 非虐待家族被害群 | 3 (6.4) [0.9] | 25 (53.2) △[4.1] | 19 (40.4) ▼[-4.3] | 47 (100.0) | χ ² (2)=18.845 p=0.000** |
| | 被虐待経験あり群 | 4 (3.3) [-0.9] | 26 (21.1) ▼[-4.1] | 93 (75.6) △[4.3] | 123 (100.0) | |
| | 合計 | 7 (4.1) | 51 (30.0) | 112 (65.9) | 170 (100.0) | |

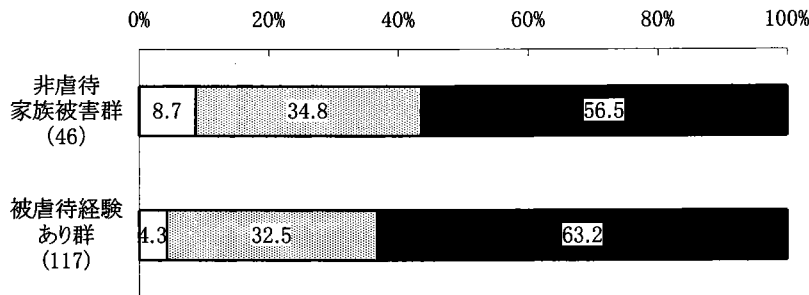
注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 表13-1の注3・5に同じ。
 4 図13-1の注3に同じ。

図13-7 一般被害・家族からの被害の前後関係と被虐待経験等

① 男子



② 女子



□一般被害先行 ■同時期 ■家族からの被害先行

| | | 一般被害と家族からの被害の前後関係 | | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------|--------------------------------------|
| | | 一般被害先行 | 同時期 | 家族からの被害先行 | | |
| 男子 | 非虐待家族被害群 | 64 (15.7) △[6.3] | 174 (42.6) △[2.2] | 170 (41.7) ▼[-5.7] | 408 (100.0) | $\chi^2(2)=54.067$ $p=0.000^{**}$ |
| | 被虐待経験あり群 | 52 (5.4) ▼[-6.3] | 349 (36.2) ▼[-2.2] | 563 (58.4) △[5.7] | 964 (100.0) | |
| | 合計 | 116 (8.5) | 523 (38.1) | 733 (53.4) | 1,372 (100.0) | |
| 女子 | 非虐待家族被害群 | 4 (8.7) | 16 (34.8) | 26 (56.5) | 46 (100.0) | $\chi^2(2)=1.466$ $p=0.481$ |
| | 被虐待経験あり群 | 5 (4.3) | 38 (32.5) | 74 (63.2) | 117 (100.0) | |
| | 合計 | 9 (5.5) | 54 (33.1) | 100 (61.3) | 163 (100.0) | |

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 表13-1の注3・5に同じ。
 4 図13-1の注3に同じ。

被害と初発非行時期について示した図13-2から図13-7までの結果から、家族からの被害を受け始めるのは、一般被害や初発非行より先である場合が多く、特に虐待の開始が初発非行より早い時期に見ら

れる場合が多いことが明らかになった。表13-12-1は、家族からの被害・一般被害・初発非行三者の前

表13-12-1 被虐待等と一般被害・家族からの被害・初発非行の時期的前後関係

| 男子 | | | | 女子 | | | |
|----------|----------------------------------|--------------------------|-----------------|----------|------------------------|------------------------|----------------|
| | 被害 | 被虐待 | 合計 | | 被害 | 被虐待 | 合計 |
| 初発→家族→一般 | 11 (2.7) [1.9] | 12 (1.2) [-1.9] | 23 (1.7) | 初発→家族→一般 | 0 - - | 0 - - | 0 - - |
| 初発→一般→家族 | 4 (1.0) △[2.0] | 2 (0.2) ▼[-2.0] | 6 (0.4) | 初発→一般→家族 | 0 - - | 0 - - | 0 - - |
| 家族→初発→一般 | 17 (4.2) ▼[-2.2] | 71 (7.4) △[2.2] | 88 (6.4) | 家族→初発→一般 | 3 (6.5) [-0.3] | 9 (7.7) [0.3] | 12 (7.4) |
| 家族→一般→初発 | 22 (5.4) ▼[-4.4] | 132 (13.7) △[4.4] | 154 (11.2) | 家族→一般→初発 | 3 (6.5) ▼[-2.0] | 22 (18.8) △[2.0] | 25 (15.3) |
| 一般→初発→家族 | 2 (0.5) [1.4] | 1 (0.1) [-1.4] | 3 (0.2) | 一般→初発→家族 | 0 - [-0.6] | 1 (0.9) [0.6] | 1 (0.6) |
| 一般→家族→初発 | 10 (2.5) [0.8] | 17 (1.8) [-0.8] | 27 (2.0) | 一般→家族→初発 | 0 - [-0.6] | 1 (0.9) [0.6] | 1 (0.6) |
| 家族・初発→一般 | 39 (9.6) [-1.0] | 111 (11.5) [1.0] | 150 (10.9) | 家族・初発→一般 | 10 (21.7) △[3.2] | 6 (5.1) ▼[-3.2] | 16 (9.8) |
| 初発・一般→家族 | 16 (3.9) △[3.6] | 10 (1.0) ▼[-3.6] | 26 (1.9) | 初発・一般→家族 | 1 (2.2) [1.6] | 0 - [-1.6] | 1 (0.6) |
| 家族・一般→初発 | 63 (15.5) ▼[-2.3] | 201 (20.9) △[2.3] | 264 (19.3) | 家族・一般→初発 | 3 (6.5) [-1.7] | 20 (17.1) [1.7] | 23 (14.1) |
| 初発→家族・一般 | 26 (6.4) △[3.8] | 22 (2.3) ▼[-3.8] | 48 (3.5) | 初発→家族・一般 | 2 (4.3) [1.0] | 2 (1.7) [-1.0] | 4 (2.5) |
| 家族→初発・一般 | 81 (19.9) [-1.9] | 237 (24.6) [1.9] | 318 (23.2) | 家族→初発・一般 | 10 (21.7) [-1.3] | 37 (31.6) [1.3] | 47 (28.8) |
| 一般→家族・初発 | 32 (7.9) △[4.9] | 22 (2.3) ▼[-4.9] | 54 (3.9) | 一般→家族・初発 | 3 (6.5) [1.2] | 3 (2.6) [-1.2] | 6 (3.7) |
| 家族・一般・初発 | 84 (20.6) △[3.6] | 126 (13.1) ▼[-3.6] | 210 (15.3) | 家族・一般・初発 | 11 (23.9) [1.6] | 16 (13.7) [-1.6] | 27 (16.6) |
| 合計 | 407 (100.0) | 964 (100.0) | 1371 (100.0) | 合計 | 46 (100.0) | 117 (100.0) | 163 (100.0) |
| 検定結果 | $\chi^2(12)=99.967$ p=0.000** | | | 検定結果 | (m) p=0.004** | | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答及び「いっだったか覚えていない」を除く。

3 「」のついた群は、該当者がいなかったため、検定から除外している。

4 文中で使用したラベルは、表中のラベルとしては長いので、省略したものを使用している。

「一般被害」は「一般」に、「家族からの被害」は「家族」に、「初発非行」は「初発」に短縮している。

5 「→」は、記号の左側のものが時期的に右側のものに先行することを、「・」は、同時期であることを示す。

6 表13-1の注3・5に同じ。

7 図13-1の注2・3に同じ。

表13-12-2 家族のみあり群における虐待等と被害・初発非行の時期の関係

| | | 家族被害 経験のみ群 | 被虐待経験 あり群 | 合計 | 検定結果 |
|----|-------|------------------------|------------------------|---------------|------------------|
| 男子 | 初発→家族 | 1 (7.1) [0.5] | 1 (3.6) [-0.5] | 2 (4.8) | (m) p=0.004** |
| | 家族→初発 | 4 (28.6) ▼[-3.1] | 22 (78.6) △[3.1] | 26 (61.9) | |
| | 家族・初発 | 9 (64.3) △[3.0] | 5 (17.9) ▼[-3.0] | 14 (33.3) | |
| | 合計 | 14 (100.0) | 28 (100.0) | 42 (100.0) | |
| 女子 | 初発→家族 | 0 - | 1 (16.7) | 1 (14.3) | (m) p=0.435 |
| | 家族→初発 | 0 - | 4 (66.7) | 4 (57.1) | |
| | 家族・初発 | 1 (100.0) | 1 (16.7) | 2 (28.6) | |
| | 合計 | 1 (100.0) | 6 (100.0) | 7 (100.0) | |

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。
 3 表13-1の注3・5に同じ。
 4 図13-1の注2・3に同じ。
 5 表13-11-1の注4・5に同じ。

後関係をまとめて見るために、すべてのパターンを挙げて、男女別に示したものである。また、表13-12-2は、数は少ないが、家族からの被害のみを受けている者について、家族からの被害を受け始めた時期と初発非行の時期との前後関係を、男女別に見たものである。

表13-12-1を見ると、被虐待経験あり群で最も多かったのは、男子においては、「家族→初発・一般」(24.6%)のパターンであり、順に「家族・一般→初発」(20.9%)、「家族→一般→初発」(13.7%)と続く。女子において最も多く見られたのも、「家族→初発・一般」(31.6%)のパターンであり、「家族→一般→初発」(18.8%)、「家族・一般→初発」(17.1%)と続く。つまり、上位三つに含まれるパターンは男女とも同じである。非虐待家族被害群で最も多かったのは、男女ともに、「家族・一般・初発」であった。

χ^2 検定の結果、男女ともに有意差が認められた。男子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、「家族→初発→一般」, 「家族→一般→初発」, 「家族・一般→初発」のパターンが有意に多く、「初発→一般→家族」, 「初発・一般→家族」, 「初発→家族・一般」, 「一般→家族・初発」, 「家族・一般・初発」のパターンが少なかった。女子の被虐待経験あり群は、非虐待家族被害群と比べ、「家族→一般→初発」のパターンが有意に多く、「家族・初発→一般」のパターンが有意に少なかった。

表13-12-2を見ると、男子の被虐待経験あり群では、「家族→初発」が80%近くで最も多いのに対し、非虐待家族被害あり群の、「家族→初発」は30%未満である。

χ^2 検定の結果、男子に有意差が認められた。被虐待経験あり群は、「家族→初発」が有意に多く、「家

族・初発」が有意に少ない。

表13-12-1及び表13-12-2から、実際に虐待は、虐待以外の家族からの被害と比べ、一般被害や初発非行に先行している場合が多いことが分かった（参考資料として、一般被害のみあり群の、被害と初発非行時期との前後関係については、資料13-5参照）。

ウ 家族からの被害のみあり群・両方あり群と虐待の有無を組み合わせで作った4群の特徴

ここまで、被虐待経験あり群全体を見て、初発非行や被害の時期との関係を探ったが、表13-11に示したように、家族からの被害を受けた経験のある群は、「家族からの被害のみあり群で、かつ非虐待家族被害群」、「家族からの被害のみあり群で、かつ被虐待経験あり群」、「両方あり群で、かつ非虐待家族被害群」、「両方あり群で、かつ被虐待経験あり群」の四つに分けることができる（以下、群の名前を順に「家族のみ・非虐待群」、「家族のみ・虐待群」、「両方あり・非虐待群」、「両方あり・虐待群」とする。）。そこで、被害全体の中の被虐待経験あり群の位置付けをより明確にするために、上記4群について、表13-10と同様に、各群の特徴を挙げることを試みた。ただし、女子については、数が1人となる群が存在し、統計的分析が不可能であるため、男女合わせた分析を行った。その結果を示したのが、表13-13である（統計の詳細については、資料13-6参照）。

家族からの被害のみあり群でも被虐待経験の有無により、特徴が異なり、同様に、両方あり群でも被虐待経験の有無により、特徴が異なることが分かる。両方あり・虐待群は、非虐待群と比べ、きょうだいの中で本人だけ非行が見られるのが特徴であり、MJPIや初発非行時期と虐待開始時期との関係の結果は、虐待を受けたことが本人の人格や問題行動に影響を及ぼしていることをうかがわせる。家族のみ・虐待群と非虐待群は、知的能力の面で似ているが、虐待群は家族の負因があったり少年の情緒面に問題が見られたりする点に差が見られる。

各群の特徴からそのイメージをまとめると、以下のようなになる。

- ・家族のみ・非虐待群；知的にかなり劣り、知的障害として処遇される者が多い。粗暴性は目立たず、非行が見られるようになるのは遅い。非行が見られたところに、親に1回たたかれるなどしている。
- ・家族のみ・虐待群；知的にかなり劣っている。家族の負因、つまり父親の犯罪・非行歴やきょうだいの薬物使用歴などがある者が多い。非社会性が目立ち、情緒障害として処遇される者が多いが、非行が見られるようになったのは遅い。
- ・両方あり・非虐待群；知的には平均より低い者が多い。兄や姉がおり、きょうだいの犯罪・非行歴などの負因がある者が多い。本件は強盗など重大なものが他の群に比べて多いが、少年院は今回が初めてである者が多い。父親が厳しい者や母親が拒否的な者が少ない。非行が見られるようになってから、あるいは非行が見られるようになったところに、親に1回たたかれるなどしている。
- ・両方あり・虐待群；知的には他の3群よりかなり高い者が多い。父親が厳しい者が多く、虐待は非行より前に受け始めている。きょうだいの長子で、弟や妹に非行がある者は少ない。非虐待群よりも、精神的な不安定さや、落ち着きのなさ、自己顕示性が目立つ。本件は強盗などの重大なものが他の群に比べて多くないが、非行を繰り返しているのか、少年が2回目以降という者が他の群よりも多い。

表13-13 残差分析の結果から見る、各群の特徴

① 家族のみ・非虐待群(16人, 家族からの被害経験がある者全体の1%)**1 本人の属性にかかわる変数**

- ・ IQ70未満の者が多い
- ・ MJPIの「自己顕示」の得点が、両方あり・非虐待群より低い傾向があり、両方・虐待群より低い

2 家族にかかわる変数

- ・ きょうだいのいる第1子である者が少なく、第2子以降である者が多い
- ・ 義父にアルコール中毒歴がある者が多く、ただし、実数は1>

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い傾向があり、中学生時である者が少ない傾向がある
- ・ 初発非行よりも被害を先に受けた者が少なく、同時期である者が多い
- ・ 傷害・暴行による検挙歴を持つ者が少ない

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 処遇課程の分類級がH1である者が多い

② 家族のみ・虐待群(34人, 同2.1%)**1 本人の属性にかかわる変数**

- ・ IQ70未満の者が多く、IQ70台の者が多く、IQ100以上の者が少ない

2 家族にかかわる変数

- ・ 親の負因がある者が多い
- ・ 実父に犯罪・非行歴がある者が多い
- ・ きょうだいに薬物使用歴のある者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行の時期が中卒以後である者が多い傾向がある

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 処遇課程の分類級がH2である者が多い

③ 両方あり・非虐待群(488人, 同29.8%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70台の者が多い
- ・ MJPIの「虚構」が両方あり・虐待群より高く、「不安定」、「自己顕示」、「過活動」が両方あり・虐待群よりも低く、「自己顕示」が家族のみ・非虐待群よりも高い傾向がある

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「厳格」である者が少ない
- ・ 母親の態度が「拒否」である者が少ない傾向がある
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴のある者が多い
- ・ きょうだいのいる第1子である者が少なく、第2子以降である者が多い

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行が家族からの被害より先に見られた者が多く、同時期である者が多く、初発非行よりからの被害を先に受けた者が少ない

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が強盗である者が多い傾向がある
- ・ 本件非行種類が凶悪犯である者が多い
- ・ 処遇課程の分類級がE・Oである者が多い
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が多く、2回目以上の者が少ない

④ 両方あり・虐待群(1,100人, 同67.2%)

1 本人の属性にかかわる変数

- ・ IQ70未満の者が少なく、IQ70台の者が少なく、IQ100以上の者が多い
- ・ MJPIの「虚構」が両方あり・非虐待群よりも低く、「不安定」、「自己顕示」、「過活動」が両方あり・非虐待群よりも高く、「自己顕示」が家族のみ・非虐待群よりも高い

2 家族にかかわる変数

- ・ 父親の態度が「厳格」である者が多い
- ・ きょうだいに犯罪・非行歴、薬物使用歴がある者が少ない
- ・ きょうだいのいる第1子である者が多く、第2子以降である者が少ない

3 問題行動歴にかかわる変数

- ・ 初発非行が虐待よりも先に見られる者が少なく、同時期である者が少なく、初発非行よりも虐待を先に受けている者が多い

4 今回入院にかかわる変数

- ・ 本件非行名が強盗である者が少ない傾向があり、恐喝である者が多い傾向がある
- ・ 本件非行種類が凶悪犯である者が少ない
- ・ 処遇課程の分類級がOである者が少ない
- ・ 入院回数は、今回入院が初回の者が少なく、2回目以上の者が多い

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 表中「多い」「少ない」と表現しているものは、5%以下の水準で有意であったものであり、「傾向がある」と表現しているのは、10%以下の水準での有意傾向が認められたものである。

4 まとめ

この項では、一般被害の有無と家族からの被害の有無の関連について分析するとともに、一般被害の有無と家族からの被害の有無を組み合わせることができる4群の特徴を検討した。その上で、少年院在院者の被害経験全体の中での被虐待経験の位置付けを試みた。

その結果の概要は以下のとおりである。

- ① 一般被害の有無と家族からの被害の有無について、一方を経験している者は、経験していない者と比べ、他方を経験している場合が有意に多く、一方を経験していない者は、他方も経験していない場合が有意に多いという関連が認められた。
- ② 加害者（家族以外から・家族から）と被害の態様（身体的暴力・性的暴力）を組み合わせる4種類の被害群を作り、相互の関連を見たところ、身体的暴力と性的暴力の間でも、ほとんど①と同様の関連が認められた。ただし、家族からの性的暴力と家族以外からの身体的暴力との間の関連は、男女とも認められなかった。
- ③ 調査対象少年が受けた被害のパターンを②の4種類の被害で見ると、一種類の被害にとどまらず、複数の種類の被害を受けている者が多いことが分かった。特に女子は、性的暴力の被害を含んだ被害を受けている者が多い。男女とも、受ける被害の組合せのパターンは、いくつかに偏っている。
- ④ 男子において、一般被害及び家族からの被害を受け始めた時期と初発非行時期は関連が認められ、同じ時期である者が有意に多かった。
- ⑤ 一般被害と家族からの被害とでそれぞれ初発非行時期との前後関係を見てみると、一般被害を受け始めたのは初発非行の時期と同じである者が最も多く、家族からの被害を受け始めたのは、初発非行の時期より前である者が最も多かった。また、一般被害と家族からの被害を両方受けた経験のある者について、それぞれの被害を受け始めた時期を比べると、家族からの被害を一般被害より先に受け始めている者が多い。
- ⑥ 一般被害の有無、家族からの被害の有無と非行性との関連をそれぞれ検討した場合、男子において、家族からの被害の有無と非行性の指標（処遇区分・入院回数）との関連が認められた。家族からの被害を受けた経験がある者は、ない者と比べ、非行性が進んでいる。
- ⑦ 法務省式人格目録の得点を指標に、一般被害の有無、家族からの被害の有無と性格特性との関係を、それぞれ検討した場合、一般被害の有無で差が見られた性格特性と、家族からの被害の有無で差が見られた性格特性とが異なり、一般被害の経験がある者は、ない者よりも、「虚構」及び「偏向」の得点が低く、「自己顕示」及び「軽躁」の得点が高い。家族からの被害経験がある者は、ない者よりも、「虚構」及び「自我防衛」の得点が低く、「心気症」、「自信欠如」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」及び「偏狭」の得点が高い。
- ⑧ 一般被害と家族からの被害をそれぞれ要因として、各要因の主効果及び要因間の交互作用の有無を見たところ、「虚構」、「偏向」、「自己顕示」及び「軽躁」で一般被害の主効果が、「偏狭」で一般被害と家族からの被害の交互作用が認められた。つまり、家族からの被害経験の有無にかかわらず、「虚構」、「偏向」の得点は、一般被害の経験がない者の方が、ある者よりも高く、「自己顕示」、「軽躁」の得点は、一般被害の経験がある者の方が、ない者よりも高い。そして、「偏狭」の得点は、一般被害の経験がなくて、家族からの被害経験もない者では高いが、一般被害の経験がなくて、家族からの被害がある場合は低く、一般被害の経験があっても、家族からの被害経験がない場合は低いが、一般被害の経験があっても、家族からの被害経験もある場合は高い。
- ⑨ 一般被害の有無と家族からの被害の有無とを組み合わせる4群を作り、性格特性の指標を比較した

ところ、最も多く差が見られたのは、一般被害も家族からの被害も経験している群と一般被害のみ経験している群との間であった。両方の被害を経験している者は、一般被害のみ経験している者よりも、「虚構」及び「自我防衛」の得点が低く、「心気症」、「抑うつ」、「不安定」、「爆発」、「自己顕示」及び「偏狭」の得点が高い。

- ⑩ 一般被害と家族からの被害の交互作用の背景を探るために、一般被害の有無と家族からの被害の有無とを組み合わせて作った4群と、対象者の属性にかかわる多くの変数の中から、検定の結果、各群で有意に多かった変数または少なかった変数を特徴として列挙した。その結果を端的にまとめると以下のようなになる。
- ・両方なし群は、家族の負因や親との関係などの家庭の問題は目立たないが、知的能力の低さや非社会性など、本人の資質の問題が大きい。
 - ・家族からの被害のみあり群は、家族の問題も本人の問題も大きい、中学校を卒業するまでは非行が目立たなかった。
 - ・一般被害のみあり群は、家庭の問題は目立たず、思春期以降に問題を起こし始めたが、非行性の程度は、少年院在院者の中では比較的軽い。
 - ・両方あり群は、親の態度に拒否的傾向がうかがえ、問題行動が小学生時など早い時期に見られ始めていて非行が進んでいる。
- ⑪ 家族からの被害のみを受けている者も、家族からの被害と一般被害の両方を受けている者も、それぞれ70%程度が被虐待経験者であり、30%程度が家族から虐待に当たらない被害のみ受けた者である。
- ⑫ 被虐待経験者の95%以上が一般被害も受けており、家族からの被害のみを受けている者は5%に満たなかった。家族から虐待に当たらない被害を受けた者の、一般被害の経験率もほぼ同率である。
- ⑬ 被虐待経験者においては、男女とも、虐待開始時期が初発非行時期や一般被害の開始時期に先行している場合が60~70%程度と最も多く、その逆は5%以下と少ない。
- ⑭ 一般被害・家族からの被害・初発非行の時期的前後関係を見てみると、被虐待経験者において最も多かったのは、虐待開始後に初発非行と一般被害が同時期に見られるパターンであった。虐待でない家族からの被害を受けた者と比べると、被虐待経験者は、家族からの被害が先行しているパターンが多く、初発非行や一般被害が先行しているパターンが少ない傾向が見られる。
- ⑮ 家族からの被害を受けた経験のある者を、被虐待経験者であるかどうかと、一般被害も受けているかどうかによって4群に分けて、群の特徴を探った。その結果、被虐待経験者の方が、家族から虐待に当たらない被害を受けた者よりも、性格形成や問題行動の開始に家族からの被害の影響がうかがわれた。

5 考察

本項は、第1報告で分析の中心とした家族からの被害と、本報告書で分析の中心とした家族以外の者からの被害をまとめ、少年院在院者の被害体験の全体像を明らかにすることを試みた。ここでは、分析の結果から以下の点について若干の考察を行う。

1点目は、少年院在院者の被害経験の広がりについてである。

第1報告においては、調査で定義した被害を、少なくとも一つ、家族から受けた経験のある者が、調査対象者の約70%、被虐待経験を有する者が約半数いることを明らかにし(22ページ)、少年院在院者における、家族からの被害の広がりを示した。第1報告においても、家族からの被害と家族以外からの被害の両方を受けている者が約70%いることを述べており(10ページ)、家庭の外での被害経験の広がりや

家族からの被害との重なりが推測されたが、本項の分析の結果、家族からの被害を受けている者は、家族以外からの被害も受けている者が多く、家族からの被害を受けていない者は、家族以外からの被害も受けていない者が多い、という傾向が統計的に明らかになった。さらに、被害を身体的暴力被害と性的暴力被害に分け、加害者（家族・家族以外）の別も設けて各被害群間の分析を行ったところ、多くの被害群間に関連が見られ、やや乱暴な言い方をすれば、「被害を受ける者はより多く受ける」という結果となった。

ここで注目すべきは、身体的暴力と性的暴力の関連及び特に女子対象者に見られる、身体的暴力と組み合わさった性的被害経験の多さである。女子の約半数は、「家の中でも外でも身体的暴力を受け、外では性的暴力も受けた」者たちである。「家の中でも外でも身体的暴力を受け、家の中でも外でも性的暴力を受けた」者も10%以上いる。性的暴力のみを受けた者は非常に少ない。男子においても、性的暴力だけを受けた者よりは、身体的暴力も受けた者の方が多い。このこと背景には、性的暴力が文字どおり「暴力」であり、加害者が物事を思いどおりにするために力を乱用するという身体的暴力との共通点があると思われる。それだけ、少年院の在院者たちが、そうした性向を持つ者の多い生活環境に生活してきており、被害に遭う危険性が高かったといえるのかもしれないし、生活環境の影響で暴力を当然のことととらえる認知が形成され、そのことが暴力に身をさらす機会を多くしているのかもしれない（男子に比して腕力の弱い女子の場合は特に、暴力に対する無力感を強めていることも考えられる。）。いずれにしろ、加害者として少年院に入院してきた少年たちは、ほとんどが、暴力被害を受けたことがあるのであり、暴力を受けたことによる嫌な思いを体験しているはずである。そうした少年たちが、なぜ「自分がされて嫌な事は他人にもしない」という方向に向かわなかったのか、個々の少年の生活歴に即して理解していく必要があるし、本人にも理解させることが処遇上必要と思われる。

2点目は、家族以外からの被害の有無と家族からの被害の有無の組合せという視点から行った少年院在院者のタイプ分けについてである。

家族以外の者からの被害の有無という視点から、あるいは家族からの被害の有無という視点からそれぞれ非行性や性格特性について検討した場合、それぞれの効果は一樣ではなく、両者の組合せにより異なった結果が生じる可能性が認められたため、両方の被害がない者、どちらか片方の被害のみある者、両方の被害がある者に分けて、それぞれの群の特徴を見た。

対象者の約70%を占める「両方あり群」は、いわば典型的に非行の進んだ少年であり、家の中でも外でも被害を受けるような生活環境にいた、ということが問題の大きさに反映されているように思える。一方、「一般被害のみあり群」が比較的問題の小さいグループとして、「両方あり群」と対の関係にある点が興味深い。「家族以外からの被害を受けた方が受けていないより良い」という論理は不自然であるが、「少年院に送致されるほどの少年なら、およそ不良交遊があったことが考えられ、その中でのけんかや先輩からの暴力は十分予想される。家族との関係の問題や家族自体の負因が大きくなり、思春期以降に始まった逸脱であることを考えると、少年院在院者の中では、比較的問題の小さい方である」と考えると、さほど無理はないように思える。そして、「両方なし群」は、加害経験しかない少年であるが、家族からの被害はともかく一般被害もないということは、少年院に送致されるほどの非行がありながら、不良交遊がなかったことを表しているのかもしれない。それは、この群の特徴として示唆された非社会性や考え方の偏り等を反映している可能性もある。ほかにも、本調査で扱わなかった心理的な被害等の大きなストレス経験や、被害など受けたことはないとする否認の機制等、被害がないと回答した理由はいくつか考えられるが、いずれにしろ非行が展開したパターンが他の多くの少年と異なってやや複雑であることが考えられ、そうしたことが「一般被害のみあり群」との質的差に反映されていると思われる。「家族

のみあり群」は、家族からの被害を受けた経験のある者の中では非常に少ない存在であり、親の負因などは「両方あり群」に劣らぬ家庭環境の厳しさをうかがわせるが、周囲の援助があったのか、非社会的傾向などの本人の特性が影響していたのか、何らかの早期の行動化を抑える要因があったと思われる。

このように考えると、被害の有無は、単純に少年の特性の原因と考えるよりも、少年の生活歴全体のありようを反映していると考えられる。そのため、少年のこれまでを理解する上で、対象少年の被害経験を把握することは重要な視点といえる。

3点目は、第1報告で分析の中心とした被虐待経験と、本報告で扱った家族以外の者からの被害を含めた被害全体との関係についてである。

家族からの被害を経験している者の95%以上が家族以外からの被害も経験している「両方あり群」であり、上述したとおりの非行の進んだタイプの少年院在院者である。このこと自体も、家族からの被害と非行性の進捗との関連をうかがわせるが、その中でも、虐待は非行に先立って見られる場合が多いし、虐待と家族以外の者からの被害を比べると、虐待の開始時期の方が早いことが多い。この項では、ここまで虐待を含めて被害と非行との因果関係については述べてこなかったが、この時間的順序まで考えると、本研究で定義した虐待に対し、「非行に対するやむにやまれぬ愛のむちだ。」と考えられるケースは少ないのではないと思われる。考察2点目のところで述べたように、被害の有無それ自体が非行の要因なのではないが、虐待のある環境は、自己評価の低下等健全な自意識の発達や自分を助けてくれない大人や社会に対する不信等社会性の発達の阻害につながったり、理由さえつけば暴力は容認されるとする認識のゆがみにつながったりするなど、少年に大きな影響を及ぼすと考えてよい。そして、被害を受けた後取る行動の傾向は、家族からの被害と家族以外の者からの被害とは異なる。身体的暴力を受けたとき、家族以外の者からの被害の場合は、相手にやり返すことが多く、家族からの被害の場合は、家出や飲酒・薬物使用が多い（第1報告94ページ）。虐待においては、加害者が同時に保護者であることにより、被害により生じる怒りを直接親に向けることがなかなかできないということを示している。上述した被害と非行の時期の前後関係やこの被害後の行動等を考えて、少年院在院者の中の被虐待経験者の一つのタイプを最も単純にイメージすると、虐待を受けて家出をし、不良交遊を深め、嫌なことがあると、覚えた飲酒・薬物に走ったり、仲間の中や他のグループとの間で、「やった・やられた」を繰り返したりしてきた者、といえようか。被虐待経験のある少年院在院者にとって、ある非行のきっかけとして意識されるのは、家族以外の他者から受けた被害かもしれないが、その元をたどると虐待への対処として学んだ逃避であったり、虐待に根ざした無力感の補償であったり、本来虐待者に向けるべき怒りのすり替えであったりすることがありうる。その複雑さゆえに少年がそこまで内省を進めることは難しいかもしれないが、被虐待少年にとって被害と加害は裏表の切り離せない関係であると推測されるだけに、自身の加害体験と被害体験の両方を処遇の中で取り上げ、被害経験時の感情を少年の非行による被害者への共感に結び付けていくことは、重要な視点であると考えられる。

資料13-1 被害種類間の関係

① 一般・身体的暴力の有無と一般・性的暴力の有無

| | | | 一般・性的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|---------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般・身体的暴力 | なし | 129 (93.5) | 9 (6.5) | 138 (100.0) | $\chi^2(1)=14.408$ p=0.000** |
| | | あり | 1,588 (80.4) | 386 (19.6) | 1,974 (100.0) | |
| | 合計 | 1,717 (81.3) | 395 (18.7) | 2,112 (100.0) | | |
| 女子 | 一般・身体的暴力 | なし | 15 (41.7) | 21 (58.3) | 36 (100.0) | $\chi^2(1)=10.434$ p=0.001** |
| | | あり | 34 (17.6) | 159 (82.4) | 193 (100.0) | |
| | 合計 | 49 (21.4) | 180 (78.6) | 229 (100.0) | | |

② 一般・身体的暴力の有無と家族・身体的暴力の有無

| | | | 家族・身体的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|---------------|-----------------|------------------|------------------|----------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般・身体的暴力 | なし | 90 (65.2) | 48 (34.8) | 138 (100.0) | $\chi^2(1)=102.729$ p=0.000** |
| | | あり | 493 (25.2) | 1,463 (74.8) | 1,956 (100.0) | |
| | 合計 | 583 (27.8) | 1,511 (72.2) | 2,094 (100.0) | | |
| 女子 | 一般・身体的暴力 | なし | 13 (36.1) | 23 (63.9) | 36 (100.0) | $\chi^2(1)=6.362$ p=0.012* |
| | | あり | 34 (12.6) | 159 (87.4) | 193 (100.0) | |
| | 合計 | 47 (20.5) | 182 (79.5) | 229 (100.0) | | |

③ 一般・身体的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

| | | | 家族・性的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|-----------------|-----------------|------------------|------------------|------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般・身体的暴力 | なし | 137 (99.3) | 1 (0.7) | 138 (100.0) | (f) p=0.718 |
| | | あり | 1,926 (98.5) | 30 (1.5) | 1,956 (100.0) | |
| | 合計 | 2,063 (98.5) | 31 (1.5) | 2,094 (100.0) | | |
| 女子 | 一般・身体的暴力 | なし | 31 (86.1) | 5 (13.9) | 36 (100.0) | $\chi^2(1)=0.064$ p=0.800 |
| | | あり | 163 (84.5) | 30 (15.5) | 193 (100.0) | |
| | 合計 | 194 (84.7) | 35 (15.3) | 229 (100.0) | | |

④ 一般・性的暴力の有無と家族・身体的暴力の有無

| | | | 家族・身体的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|---------|----|---------------|-----------------|------------------|---------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般・性的暴力 | なし | 518 (30.5) | 1,182 (69.5) | 1,700 (100.0) | $\chi^2(1)=31.087$ p=0.000** |
| | | あり | 65 (16.5) | 329 (83.5) | 394 (100.0) | |
| | 合計 | | 583 (27.8) | 1,511 (72.2) | 2,094 (100.0) | |
| 女子 | 一般・性的暴力 | なし | 15 (30.6) | 34 (69.4) | 49 (100.0) | $\chi^2(1)=3.889$ p=0.049* |
| | | あり | 32 (17.8) | 148 (82.2) | 180 (100.0) | |
| | 合計 | | 47 (20.5) | 182 (79.5) | 229 (100.0) | |

⑤ 一般・性的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

| | | | 家族・性的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|---------|----|-----------------|--------------|------------------|---------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 一般・性的暴力 | なし | 1,693 (99.6) | 7 (0.4) | 1,700 (100.0) | $\chi^2(1)=70.745$ p=0.000** |
| | | あり | 370 (93.9) | 24 (6.1) | 394 (100.0) | |
| | 合計 | | 2,063 (98.5) | 31 (1.5) | 2,094 (100.0) | |
| 女子 | 一般・性的暴力 | なし | 45 (91.8) | 4 (8.2) | 49 (100.0) | $\chi^2(1)=2.441$ p=0.118 |
| | | あり | 149 (82.8) | 31 (17.2) | 180 (100.0) | |
| | 合計 | | 194 (84.7) | 35 (15.3) | 229 (100.0) | |

⑥ 家族・身体的暴力の有無と家族・性的暴力の有無

| | | | 家族・性的暴力 | | 合計 | 検定結果 |
|----|----------|----|-----------------|--------------|------------------|--------------------------------|
| | | | なし | あり | | |
| 男子 | 家族・身体的暴力 | なし | 580 (99.5) | 3 (0.5) | 583 (100.0) | $\chi^2(1)=5.155$ p=0.023* |
| | | あり | 1,485 (98.1) | 28 (1.9) | 1,513 (100.0) | |
| | 合計 | | 2,065 (98.5) | 31 (1.5) | 2,096 (100.0) | |
| 女子 | 家族・身体的暴力 | なし | 46 (97.9) | 1 (2.1) | 47 (100.0) | $\chi^2(1)=7.905$ p=0.005** |
| | | あり | 148 (81.3) | 34 (18.7) | 182 (100.0) | |
| | 合計 | | 194 (84.7) | 35 (15.3) | 229 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で有意差が見られることを示す。

4 「検定結果」欄の(f)は、フィッシャーの直接確率法によることを示す。

5 ()内は、構成比である。

資料13-2 一般被害及び家族からの被害を要因とした二元配置分散分析

① 虚構

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|--------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 0.43 | 1 | 0.43 | 0.00 | 0.946 |
| 家族からの被害 | 330.93 | 1 | 330.93 | 3.50 | 0.061 |
| 一般被害* | 403.07 | 1 | 403.07 | 4.26 | 0.039 |
| 性別 | 66.34 | 1 | 66.34 | 0.70 | 0.402 |
| 誤差 | 218,504.62 | 2,312 | 94.51 | | |
| 修正総和 | 220,602.62 | 2,316 | | | |

② 偏向

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 52.06 | 1 | 52.06 | 0.75 | 0.387 |
| 家族からの被害 | 4.35 | 1 | 4.35 | 0.06 | 0.803 |
| 一般被害** | 1,082.94 | 1 | 1,082.94 | 15.55 | 0.000 |
| 性別** | 2,395.63 | 1 | 2,395.63 | 34.40 | 0.000 |
| 誤差 | 160,990.94 | 2,312 | 69.63 | | |
| 修正総和 | 164,738.52 | 2,316 | | | |

③ 自我防衛

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|--------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 191.47 | 1 | 191.47 | 2.24 | 0.134 |
| 家族からの被害 | 198.23 | 1 | 198.23 | 2.32 | 0.128 |
| 一般被害 | 2.53 | 1 | 2.53 | 0.03 | 0.863 |
| 性別** | 663.64 | 1 | 663.64 | 7.77 | 0.005 |
| 誤差 | 197,440.59 | 2,312 | 85.40 | | |
| 修正総和 | 200,808.28 | 2,316 | | | |

④ 心気症

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 45.49 | 1 | 45.49 | 0.46 | 0.497 |
| 家族からの被害 | 109.56 | 1 | 109.56 | 1.11 | 0.292 |
| 一般被害 | 0.14 | 1 | 0.14 | 0.00 | 0.970 |
| 性別** | 2,669.13 | 1 | 2,669.13 | 27.02 | 0.000 |
| 誤差 | 228,399.48 | 2,312 | 98.79 | | |
| 修正総和 | 232,236.97 | 2,316 | | | |

⑤ 自信欠如

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|--------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 9.04 | 1 | 9.04 | 0.10 | 0.758 |
| 家族からの被害 | 238.34 | 1 | 238.34 | 2.51 | 0.114 |
| 一般被害 | 30.82 | 1 | 30.82 | 0.32 | 0.569 |
| 性別* | 589.36 | 1 | 589.36 | 6.20 | 0.013 |
| 誤差 | 219,870.18 | 2,312 | 95.10 | | |
| 修正総和 | 221,120.11 | 2,316 | | | |

⑥ 抑うつ

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 167.96 | 1 | 167.96 | 2.02 | 0.155 |
| 家族からの被害 | 9.40 | 1 | 9.40 | 0.11 | 0.737 |
| 一般被害 | 104.57 | 1 | 104.57 | 1.26 | 0.262 |
| 性別** | 2,322.30 | 1 | 2,322.30 | 27.94 | 0.000 |
| 誤差 | 192,171.65 | 2,312 | 83.12 | | |
| 修正総和 | 195,557.33 | 2,316 | | | |

⑦ 不安定

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 23.21 | 1 | 23.21 | 0.23 | 0.634 |
| 家族からの被害 | 143.91 | 1 | 143.91 | 1.41 | 0.236 |
| 一般被害 | 48.66 | 1 | 48.66 | 0.48 | 0.491 |
| 性別** | 2,921.22 | 1 | 2,921.22 | 28.53 | 0.000 |
| 誤差 | 236,749.17 | 2,312 | 102.40 | | |
| 修正総和 | 240,788.98 | 2,316 | | | |

⑧ 爆発

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|--------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 175.08 | 1 | 175.08 | 1.86 | 0.173 |
| 家族からの被害 | 30.71 | 1 | 30.71 | 0.33 | 0.568 |
| 一般被害 | 54.47 | 1 | 54.47 | 0.58 | 0.447 |
| 性別** | 914.86 | 1 | 914.86 | 9.72 | 0.002 |
| 誤差 | 217,586.74 | 2,312 | 94.11 | | |
| 修正総和 | 219,780.67 | 2,316 | | | |

⑨ 自己顕示

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 22.00 | 1 | 22.00 | 0.23 | 0.630 |
| 家族からの被害 | 234.64 | 1 | 234.64 | 2.48 | 0.116 |
| 一般被害* | 417.42 | 1 | 417.42 | 4.41 | 0.036 |
| 性別** | 1,207.63 | 1 | 1,207.63 | 12.75 | 0.000 |
| 誤差 | 219,005.65 | 2,312 | 94.73 | | |
| 修正総和 | 222,475.08 | 2,316 | | | |

⑩ 過活動

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|-------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 0.19 | 1 | 0.19 | 0.00 | 0.961 |
| 家族からの被害 | 34.40 | 1 | 34.40 | 0.42 | 0.515 |
| 一般被害* | 38.69 | 1 | 38.69 | 0.48 | 0.489 |
| 性別 | 22.34 | 1 | 22.34 | 0.28 | 0.599 |
| 誤差 | 187,189.57 | 2,312 | 80.96 | | |
| 修正総和 | 187,392.80 | 2,316 | | | |

⑪ 軽躁

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 4.50 | 1 | 4.50 | 0.06 | 0.813 |
| 家族からの被害 | 13.20 | 1 | 13.20 | 0.16 | 0.686 |
| 一般被害* | 375.46 | 1 | 375.46 | 4.66 | 0.031 |
| 性別** | 1,027.96 | 1 | 1,027.96 | 12.75 | 0.000 |
| 誤差 | 186,402.92 | 2,312 | 80.62 | | |
| 修正総和 | 188,003.06 | 2,316 | | | |

⑫ 従属

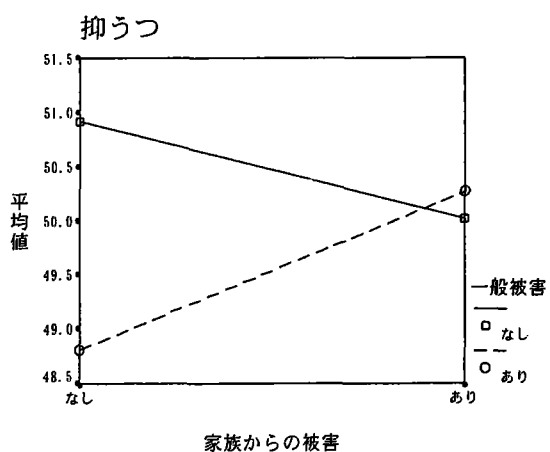
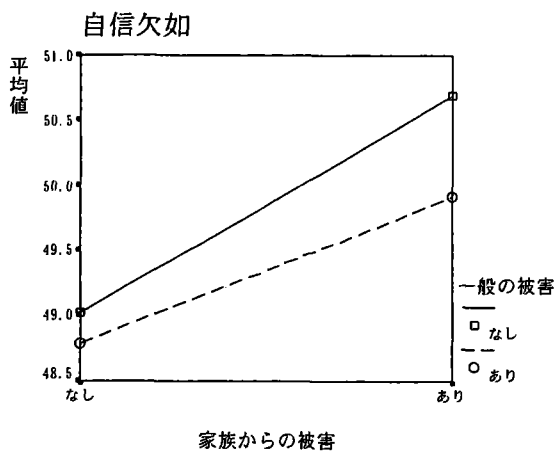
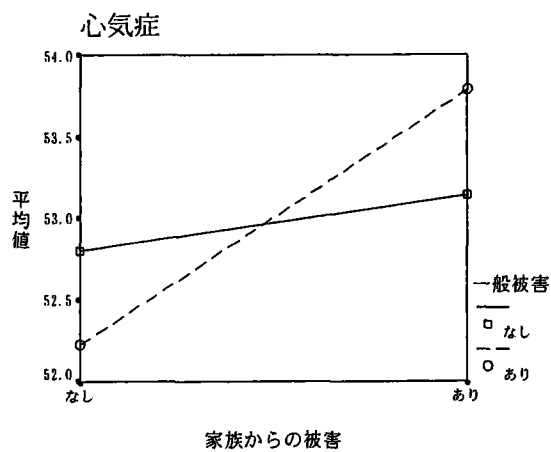
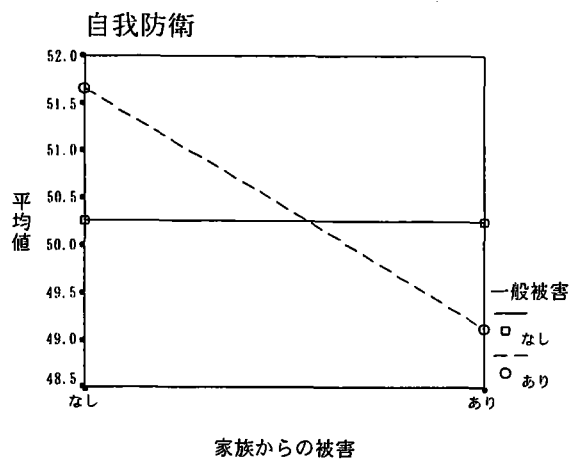
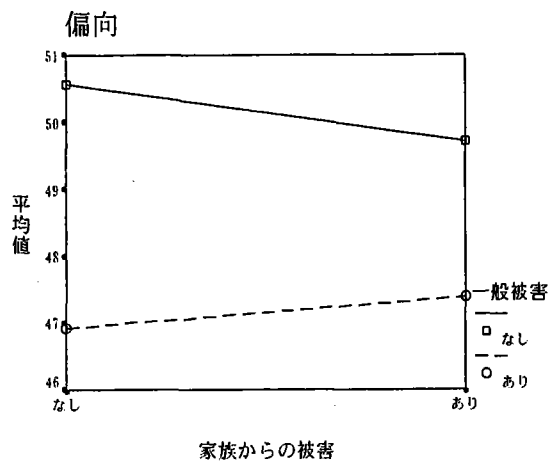
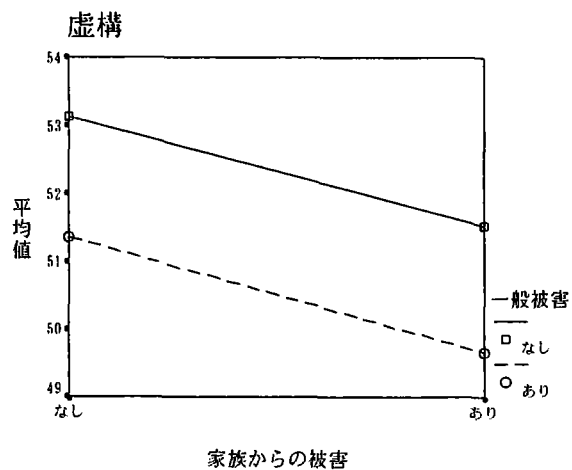
| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|--------------|------------|-------|-------|------|-------|
| 一般被害×家族からの被害 | 0.00 | 1 | 0.00 | 0.00 | 0.995 |
| 家族からの被害 | 39.53 | 1 | 39.53 | 0.43 | 0.511 |
| 一般被害* | 75.56 | 1 | 75.56 | 0.82 | 0.364 |
| 性別 | 34.94 | 1 | 34.94 | 0.38 | 0.537 |
| 誤差 | 211,942.32 | 2,312 | 91.67 | | |
| 修正総和 | 212,244.45 | 2,316 | | | |

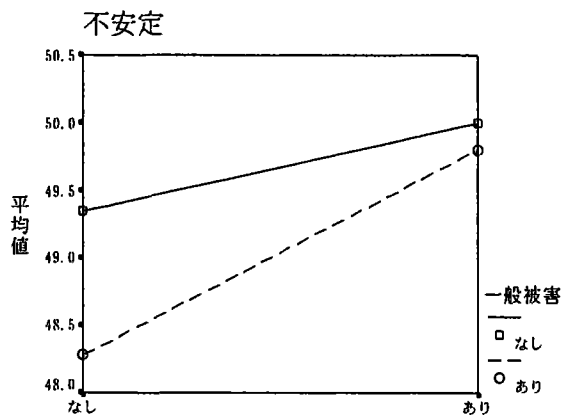
⑬ 偏狭

| 要因 | 平方和 | 自由度 | 平均平方 | F 値 | 有意確率 |
|----------------|------------|-------|----------|-------|-------|
| 一般被害×家族からの被害** | 733.35 | 1 | 733.35 | 7.89 | 0.005 |
| 家族からの被害 | 5.45 | 1 | 5.45 | 0.06 | 0.809 |
| 一般被害 | 7.49 | 1 | 7.49 | 0.08 | 0.777 |
| 性別** | 4,606.79 | 1 | 4,606.79 | 49.58 | 0.000 |
| 誤差 | 214,728.80 | 2,311 | 92.92 | | |
| 修正総和 | 221,841.75 | 2,315 | | | |

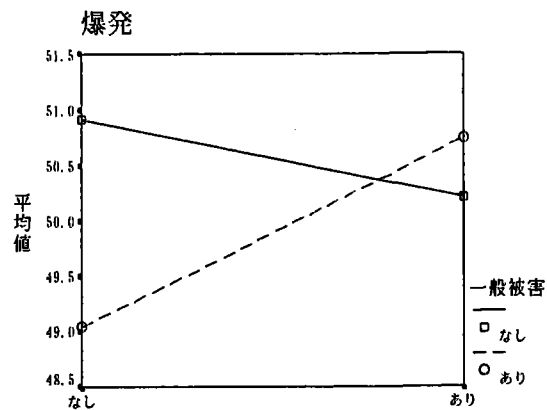
- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答及び調査をしていないものを除く。
 3 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%、1%で要因が有意であることを示す。
 4 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から1を減じた値になる。

平均値のプロット

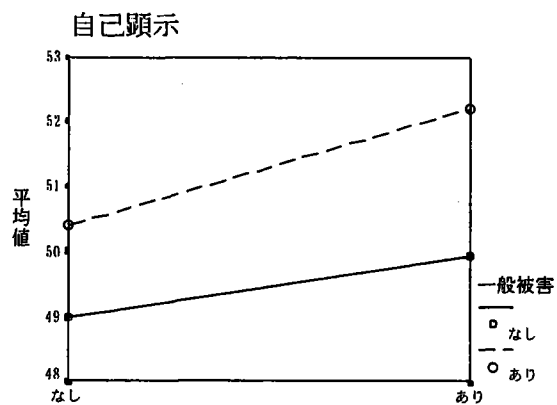




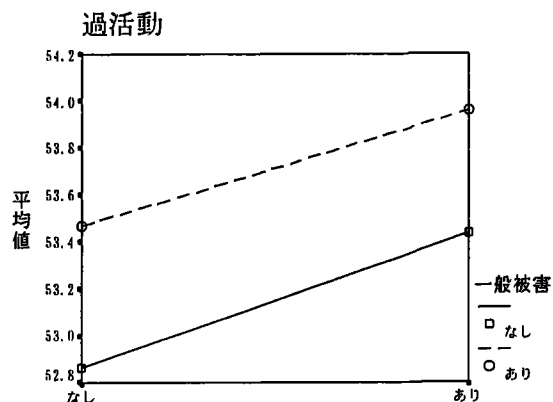
家族からの被害



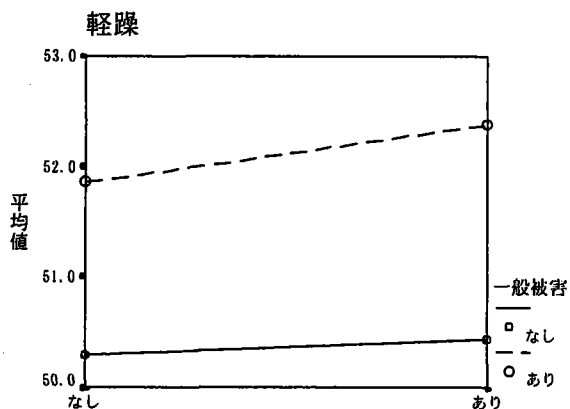
家族からの被害



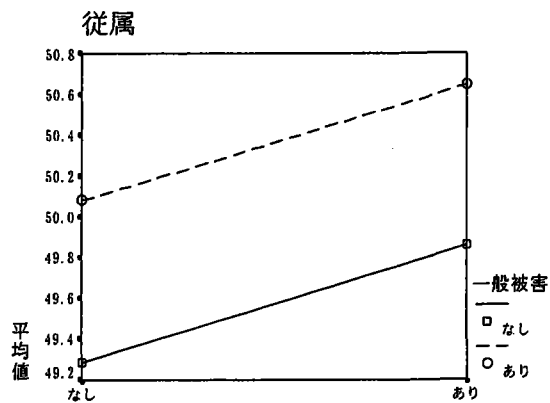
家族からの被害



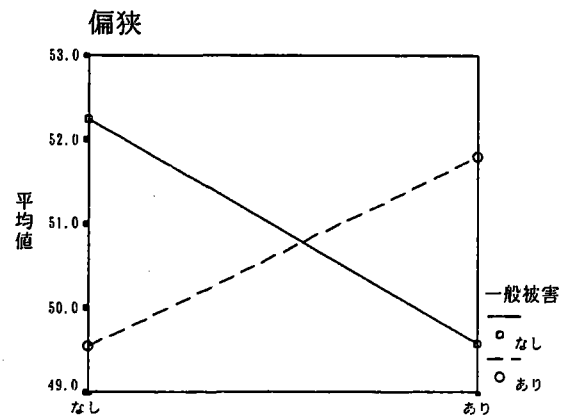
家族からの被害



家族からの被害



家族からの被害



家族からの被害

| | | | | | | | |
|----------|-------|---------|-------------|-------|-------------|-------|-------|
| 自己顕示** | 7.92 | 0.000 | 両方なし | 48.94 | 家族からの被害のみあり | -1.07 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -1.38 | 1.000 |
| | | | 家族からの被害のみあり | 50.02 | 両方あり * | -3.29 | 0.011 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -0.31 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 50.33 | 両方あり ** | -2.21 | 0.647 | | | |
| | | 両方あり | -1.90 | 0.001 | | | |
| 過活動 | 0.75 | 0.525 | 両方なし | 52.87 | 家族からの被害のみあり | -0.56 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -0.61 | 1.000 |
| | | | 家族からの被害のみあり | 53.42 | 両方あり | -1.09 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -0.05 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 53.48 | 両方あり | -0.53 | 1.000 | | | |
| | | 両方あり | -0.48 | 1.000 | | | |
| 軽躁 | 2.35 | 0.070 | 両方なし | 50.31 | 家族からの被害のみあり | -0.04 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -1.60 | 0.711 |
| | | | 家族からの被害のみあり | 50.35 | 両方あり | -2.05 | 0.215 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -1.57 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 51.92 | 両方あり | -2.01 | 0.677 | | | |
| | | 両方あり | -0.44 | 1.000 | | | |
| 従属 | 0.97 | 0.405 | 両方なし | 49.29 | 家族からの被害のみあり | -0.56 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -0.80 | 1.000 |
| | | | 家族からの被害のみあり | 49.85 | 両方あり | -1.35 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | -0.24 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 50.09 | 両方あり | -0.79 | 1.000 | | | |
| | | 両方あり | -0.55 | 1.000 | | | |
| 偏狭** | 8.81 | 0.000 | 両方なし | 52.20 | 家族からの被害のみあり | 2.45 | 0.893 |
| | | | | | 一般被害のみあり † | 2.79 | 0.073 |
| | | | 家族からの被害のみあり | 49.75 | 両方あり | 0.37 | 1.000 |
| | | | | | 一般被害のみあり | 0.34 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 49.41 | 両方あり | -2.08 | 0.782 | | | |
| | | 両方あり ** | -2.41 | 0.000 | | | |
| | | | 両方あり | 51.83 | | | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%、1%で有意差が認められることを示す。

「†」は、有意水準10%での有意傾向を示す。

各尺度名についている場合は、分散分析において4群間に有意差又は有意傾向が認められることを、比較群についている場合は、多重比較において対となる群間に有意差又は有意傾向が認められることを示す。

3 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から1を減じた値になる。

資料13-4 一般・家族有無4群と対象者にかかわる変数とのクロス表

1 本人の属性にかかわる変数

① 知能指数(IQ)

| | 70未満 | 70～79 | 80～89 | 90～99 | 100以上 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|------------------|---|
| 両方なし | 20 (21.7) △[3.7] | 21 (22.8) [0.2] | 19 (20.7) [-0.5] | 19 (20.7) [-0.2] | 13 (14.1) ▼[-2.2] | 92 (100.0) | $\chi^2(12)=$ 39.725 $p=0.000^{**}$ |
| 家族からの被害のみあり | 12 (23.1) △[3.1] | 15 (28.8) [1.2] | 11 (21.2) [-0.3] | 9 (17.3) [-0.7] | 5 (9.6) ▼[-2.4] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 47 (9.0) [-1.0] | 134 (25.7) △[2.3] | 111 (21.3) [-0.9] | 98 (18.8) [-1.7] | 131 (25.1) [1.0] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 159 (9.6) [-1.6] | 343 (20.7) ▼[-2.6] | 387 (23.3) [1.1] | 373 (22.5) [1.9] | 396 (23.9) [0.8] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 238 (10.2) | 513 (22.1) | 528 (22.7) | 499 (21.5) | 545 (23.5) | 2,323 (100.0) | |

② 教育歴

| | 中学在学 | 中学卒業 | 高校在学 | 高校中退 | 高校卒業 | 専修学校 等在学 | 専修学校 等中退 | 専修学校 等卒業 | その他 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|------------------|----------------------------|
| 両方なし | 12 (13.0) △[2.2] | 43 (46.7) [-0.1] | 2 (2.2) [-1.7] | 28 (30.4) [-0.5] | 3 (3.3) [0.5] | 2 (2.2) △[2.0] | 2 (2.2) [-0.3] | 0 (0.0) [-0.5] | 0 (0.0) [-0.6] | 92 (100.0) | (m) $p=0.074^{\dagger}$ |
| 家族からの被害のみあり | 4 (7.7) [0.1] | 25 (48.1) [0.2] | 2 (3.8) [-0.8] | 14 (26.9) [-0.9] | 3 (5.8) [1.5] | 0 (0.0) [-0.6] | 3 (5.8) [1.3] | 0 (0.0) [-0.3] | 1 (1.9) △[2.0] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 31 (6.0) [-1.4] | 230 (44.1) [-1.5] | 44 (8.4) △[2.1] | 175 (33.6) [0.4] | 21 (4.0) △[2.5] | 4 (0.8) [0.6] | 12 (2.3) [-0.7] | 2 (0.4) [0.9] | 2 (0.4) [0.2] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 123 (7.4) [0.3] | 794 (47.9) [1.3] | 102 (6.2) [-0.9] | 545 (32.9) [0.1] | 31 (1.9) ▼[-3.1] | 8 (0.5) [-1.2] | 47 (2.8) [0.4] | 3 (0.2) [-0.6] | 5 (0.3) [-0.6] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 170 (7.3) | 1,092 (47.0) | 150 (6.5) | 762 (32.8) | 58 (2.5) | 14 (0.6) | 64 (2.8) | 5 (0.2) | 8 (0.3) | 2,323 (100.0) | |

③ 入院時の学職別

| | 生徒・学生 | 無職 | 就業者 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|---------------|-----------------|---------------|------------------|------------------------------------|
| 両方なし | 26 (28.3) | 42 (45.7) | 24 (26.1) | 92 (100.0) | $\chi^2(6)=$ 9.500 $p=0.147$ |
| 家族からの被害のみあり | 9 (17.3) | 31 (59.6) | 12 (23.1) | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 97 (18.6) | 260 (49.9) | 164 (31.5) | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 299 (18.0) | 888 (53.6) | 471 (28.4) | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 431 (18.6) | 1,221 (52.6) | 671 (28.9) | 2,323 (100.0) | |

2 家族にかかわる変数

① 保護者

| | 実父母 | 実父 | 実母 | 実父義母 | 義父実母 | 養父母 | その他 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|-----------------|---------------|---------------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------------|----------------|
| 両方なし | 44 (47.8) | 9 (9.8) | 24 (26.1) | 7 (7.6) | 4 (4.3) | 0 - | 4 (4.3) | 92 (100.0) | (m) p=0.265 |
| 家族からの被害のみあり | 24 (46.2) | 8 (15.4) | 12 (23.1) | 2 (3.8) | 4 (7.7) | 1 (1.9) | 1 (1.9) | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 279 (53.6) | 47 (9.0) | 130 (25.0) | 8 (1.5) | 35 (6.7) | 4 (0.8) | 18 (3.5) | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 809 (48.8) | 201 (12.1) | 412 (24.8) | 58 (3.5) | 120 (7.2) | 11 (0.7) | 47 (2.8) | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 1,156 (49.8) | 265 (11.4) | 578 (24.9) | 75 (3.2) | 163 (7.0) | 16 (0.7) | 70 (3.0) | 2,323 (100.0) | |

② きょうだい数

| | 0人 | 1人 | 2人 | 3人以上 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|------------------------------------|
| 両方なし | 15 (16.3) [1.1] | 27 (29.3) [-1.8] | 25 (27.2) [-0.9] | 25 (27.2) △[2.4] | 92 (100.0) | $\chi^2(9)=$ 18.685 p=0.028* |
| 家族からの被害のみあり | 5 (9.6) [-0.7] | 14 (26.9) [-1.7] | 20 (38.5) [1.1] | 13 (25.0) [1.4] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 57 (10.9) [-1.3] | 216 (41.5) [1.7] | 172 (33.0) [0.8] | 76 (14.6) ▼[-2.1] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 215 (13.0) [0.9] | 631 (38.1) [-0.3] | 516 (31.1) [-0.7] | 296 (17.9) [0.4] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 292 (12.6) | 888 (38.2) | 733 (31.6) | 410 (17.6) | 2,323 (100.0) | |

③ きょうだい順位

| | 一人っ子 | きょうだいあり 第1子 | きょうだいあり 第2子以降 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|---------------|----------------|------------------|------------------|----------------------------------|
| 両方なし | 15 (16.3) | 21 (22.8) | 56 (60.9) | 92 (100.0) | $\chi^2(6)=$ 4.274 p=0.640 |
| 家族からの被害のみあり | 5 (9.6) | 14 (26.9) | 33 (63.5) | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 57 (10.9) | 154 (29.6) | 310 (59.5) | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 215 (13.0) | 471 (28.4) | 972 (58.6) | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 292 (12.6) | 660 (28.4) | 1,371 (59.0) | 2,323 (100.0) | |

③ 父親の態度

| | 普通 | 放任 | 拒否 | 厳格 | 過干渉 | 期待過剰 | 溺愛 | 総数 |
|-------------|-----------------------------------|----------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|----------------|----------------|------------------------|-------|
| 両方なし | 19 (29.7) [-0.5] | 32 (50.0) | 1 (1.6) [-1.3] | 12 (18.8) [-0.8] | 1 (1.6) | 2 (3.1) | 5 (7.8) [1.1] | 64 |
| 家族からの被害のみあり | 12 (30.8) [-0.3] | 14 (35.9) | 3 (7.7) [0.8] | 12 (30.8) [1.2] | 1 (2.6) | 1 (2.6) | 1 (2.6) [-0.7] | 39 |
| 一般被害のみあり | 144 (39.0) △[2.9] | 134 (36.3) | 5 (1.4) ▼[-3.7] | 65 (17.6) ▼[-2.6] | 10 (2.7) | 11 (3.0) | 30 (8.1) △[3.0] | 369 |
| 両方あり | 370 (31.1) ▼[-2.3] | 446 (37.5) | 75 (6.3) △[3.7] | 288 (24.2) △[2.4] | 35 (2.9) | 32 (2.7) | 46 (3.9) ▼[-3.0] | 1,188 |
| 合計 | 545 (32.8) | 626 (37.7) | 84 (5.1) | 377 (22.7) | 47 (2.8) | 46 (2.8) | 82 (4.9) | 1,660 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =8.312 p=0.040* | $\chi^2(3)$ =4.490 p=0.213 | (m) p=0.003** | $\chi^2(3)$ =9.061 p=0.028* | (m) p=0.929 | (m) p=0.986 | (m) p=0.015* | |

*父親の態度が「非該当」(父親がいない)である者を除く。

④ 母親の態度

| | 普通 | 放任 | 拒否 | 厳格 | 過干渉 | 期待過剰 | 溺愛 | 総数 |
|-------------|----------------------------------|-----------------------------------|------------------------|----------------|----------------------------------|----------------|-----------------------------------|-------|
| 両方なし | 29 (36.7) | 31 (39.2) [1.6] | 2 (2.5) [-1.1] | 6 (7.6) | 4 (5.1) | 2 (2.5) | 10 (12.7) [-0.4] | 79 |
| 家族からの被害のみあり | 19 (44.2) | 14 (32.6) [0.1] | 3 (7.0) [0.5] | 4 (9.3) | 5 (11.6) | 1 (2.3) | 3 (7.0) [-1.4] | 43 |
| 一般被害のみあり | 189 (41.8) | 118 (26.1) ▼[-2.5] | 13 (2.9) ▼[-2.5] | 21 (4.6) | 56 (12.4) | 30 (6.6) | 78 (17.3) △[2.2] | 452 |
| 両方あり | 543 (38.6) [1.5] | 449 (31.9) [1.5] | 85 (6.0) △[2.6] | 84 (6.0) | 142 (10.1) | 62 (4.4) | 188 (13.4) [-1.4] | 1,406 |
| 合計 | 781 (39.4) | 612 (30.9) | 103 (5.2) | 115 (5.8) | 207 (10.5) | 95 (4.8) | 279 (14.1) | 1,980 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =2.114 p=0.549 | $\chi^2(3)$ =8.197 p=0.042* | (m) p=0.038* | (m) p=0.463 | $\chi^2(3)$ =4.513 p=0.211 | (m) p=0.139 | $\chi^2(3)$ =6.275 p=0.099† | |

*母親の態度が「非該当」(母親がいない)である者を除く。

⑤ 経済状況

| | 生活保護受給 | 貧困 | 普通 | 富裕 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|--------------|---------------|-----------------|-------------|------------------|----------------|
| 両方なし | 6 (6.7) | 22 (24.4) | 62 (68.9) | 0 - | 90 (100.0) | (m) p=0.264 |
| 家族からの被害のみあり | 4 (7.8) | 12 (23.5) | 34 (66.7) | 1 (2.0) | 51 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 30 (5.8) | 99 (19.2) | 365 (70.9) | 21 (4.1) | 515 (100.0) | |
| 両方あり | 78 (4.8) | 385 (23.6) | 1,126 (68.9) | 45 (2.8) | 1,634 (100.0) | |
| 合計 | 118 (5.2) | 518 (22.6) | 1,587 (69.3) | 67 (2.9) | 2,290 (100.0) | |

⑥ 親の負因

| | なし | あり | 合計 | 検定結果 |
|-------------|--------------------------|------------------------|------------------|------------------------------------|
| 両方なし | 79 (85.9) [0.6] | 13 (14.1) [-0.6] | 92 (100.0) | $\chi^2(3) = 8.820$ $p=0.032^*$ |
| 家族からの被害のみあり | 36 (69.2) ▼[-2.9] | 16 (30.8) △[2.9] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 442 (84.8) [0.7] | 79 (15.2) [-0.7] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 1,389 (83.8) [0.0] | 269 (16.2) [0.0] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 1,946 (83.8) | 377 (16.2) | 2,323 (100.0) | |

⑦ 実父の負因

| | 犯罪・非行 | 酒乱・アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|-------------|------------------------------------|----------------------------------|------------------|-------|
| 両方なし | 9 (9.8) [0.8] | 4 (4.3) | 2 (2.2) | 92 |
| 家族からの被害のみあり | 9 (17.3) △[2.6] | 5 (9.6) | 3 (5.8) | 52 |
| 一般被害のみあり | 36 (6.9) [-0.7] | 26 (5.0) | 10 (1.9) | 521 |
| 両方あり | 124 (7.5) [-0.5] | 101 (6.1) | 36 (2.2) | 1,658 |
| 合計 | 178 (7.7) | 136 (5.9) | 51 (2.2) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3) = 7.918$ $p=0.048^*$ | $\chi^2(3) = 2.588$ $p=0.460$ | (m) $p=0.335$ | |

⑧ 義父の負因

| | 犯罪・非行 | 酒乱・アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|-------------|------------------|------------------|------------------|-------|
| 両方なし | 0 - | 0 - | 0 - | 92 |
| 家族からの被害のみあり | 0 - | 1 (1.9) | 0 - | 52 |
| 一般被害のみあり | 4 (0.8) | 0 - | 2 (0.4) | 521 |
| 両方あり | 13 (0.8) | 8 (0.5) | 6 (0.4) | 1,658 |
| 合計 | 17 (0.7) | 9 (0.4) | 8 (0.3) | 2,323 |
| 検定結果 | (m) $p=0.853$ | (m) $p=0.108$ | (m) $p=1.000$ | |

⑨ 実母の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|---------------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 両方なし | 2 (2.2) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 1 (1.9) | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 52 |
| 一般被害 のみあり | 12 (2.3) | 4 (0.8) | 7 (1.3) | 521 |
| 両方あり | 36 (2.2) | 23 (1.4) | 23 (1.4) | 1,658 |
| 合計 | 51 (2.2) | 27 (1.2) | 30 (1.3) | 2,323 |
| 検定結果 | (m) p=0.986 | (m) p=0.357 | (m) p=0.584 | |

⑩ 養母の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|---------------------|----------------|----------------|------|-------|
| 両方なし | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 0 (0.0) | 0 (0.0) | 0 | 52 |
| 一般被害 のみあり | 1 (0.2) | 1 (0.2) | 0 | 521 |
| 両方あり | 1 (0.1) | 0 (0.0) | 0 | 1,658 |
| 合計 | 2 (0.1) | 1 (0.0) | 0 | 2,323 |
| 検定結果 | (m) p=0.492 | (m) p=0.288 | 検定不能 | |

⑪ きょうだいの負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|---------------------|-----------------------------------|----------------|-----------------------|-------|
| 両方なし | 17 (22.1) [1.3] | 0 - | 2 (2.6) [0.3] | 77 |
| 家族から の被害の みあり | 11 (23.4) [1.3] | 0 - | 5 (10.6) △[3.0] | 47 |
| 一般被害 のみあり | 60 (12.9) ▼[-2.4] | 0 - | 11 (2.4) [-1.0] | 464 |
| 両方あり | 249 (17.3) [1.3] | 3 (0.2) | 45 (3.1) [0.1] | 1,443 |
| 合計 | 337 (16.6) | 3 (0.1) | 63 (3.1) | 2,031 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =8.203 p=0.042* | (m) p=0.658 | (m) p=0.029* | |

(一人っ子を除く。)

⑫ 実父母離婚歴

| | なし | あり | 合計 | 検定結果 |
|-------------|-----------------|-----------------|------------------|----------------------------------|
| 両方なし | 50 (54.3) | 42 (45.7) | 92 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 5.006 p=0.171 |
| 家族からの被害のみあり | 28 (53.8) | 24 (46.2) | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 317 (60.8) | 204 (39.2) | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 920 (55.5) | 738 (44.5) | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 1,315 (56.6) | 1,008 (43.4) | 2,323 (100.0) | |

3 問題行動歴にかかわる変数

① 初発非行時期

| | 小学校 以前 | 小学生 | 中学生 | 中卒以後 | 合計 | 検定結果 |
|---------------------|------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|------------------|--|
| 両方なし | 2 (2.2) [-0.1] | 31 (33.7) [1.0] | 42 (45.7) [-1.5] | 17 (18.5) [0.8] | 92 (100.0) | $\chi^2(9)=$ 32.080 $p=0.000^{**}$ |
| 家族から の被害の みあり | 0 (0.0) [-1.1] | 15 (28.8) [0.0] | 22 (42.3) [-1.6] | 15 (28.8) $\Delta[2.7]$ | 52 (100.0) | |
| 一般被害 のみあり | 4 (0.8) $\nabla[-2.6]$ | 120 (23.0) $\nabla[-3.4]$ | 304 (58.3) $\Delta[2.7]$ | 93 (17.9) [1.6] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 47 (2.8) $\Delta[2.8]$ | 506 (30.5) $\Delta[2.7]$ | 868 (52.4) [-1.3] | 236 (14.2) $\nabla[-2.7]$ | 1,657 (100.0) | |
| 合計 | 53 (2.3) | 672 (28.9) | 1,236 (53.2) | 361 (15.5) | 2,322 (100.0) | |

② 薬物使用歴

| | シンナー | 覚せい剤 | 総数 |
|---------------------|--|------------------------------------|-------|
| 両方なし | 36 (39.1) [-1.6] | 12 (13.0) | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 20 (38.5) [-1.3] | 7 (13.5) | 52 |
| 一般被害 のみあり | 221 (42.4) $\nabla[-2.6]$ | 81 (15.5) | 521 |
| 両方あり | 826 (49.8) $\Delta[3.6]$ | 289 (17.4) | 1,658 |
| 合計 | 1,103 (47.5) | 389 (16.7) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =13.258 $p=0.004^{**}$ | $\chi^2(3)$ =2.402 $p=0.493$ | |

③ 反社会集団加入歴

| | 暴走族 | 暴力団 | 総数 |
|---------------------|------------------------------------|------------------|-------|
| 両方なし | 29 (31.5) | 4 (4.3) | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 16 (30.8) | 2 (3.8) | 52 |
| 一般被害 のみあり | 204 (39.2) | 25 (4.8) | 521 |
| 両方あり | 679 (41.0) | 89 (5.4) | 1,658 |
| 合計 | 928 (39.9) | 120 (5.2) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =5.384 $p=0.146$ | (m) $p=0.898$ | |

④ 児童相談所係属歴・施設入所歴

| | 児童相談所係属 | 養護施設入所 | 児童自立支援施設入所 | 総数 |
|-------------|-------------------------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|-------|
| 両方なし | 22 (23.9) [0.3] | 7 (7.6) [0.5] | 14 (15.2) [0.5] | 92 |
| 家族からの被害のみあり | 19 (36.5) △[2.4] | 5 (9.6) [1.0] | 8 (15.4) [0.4] | 52 |
| 一般被害のみあり | 74 (14.2) ▼[-5.2] | 17 (3.3) ▼[-3.3] | 39 (7.5) ▼[-4.5] | 521 |
| 両方あり | 412 (24.8) △[3.9] | 119 (7.2) △[2.5] | 251 (15.1) △[3.8] | 1,658 |
| 合計 | 527 (22.7) | 148 (6.4) | 312 (13.4) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =31.565 p=0.000** | $\chi^2(3)$ =11.398 p=0.0098** | $\chi^2(3)$ =20.421 p=0.000** | |

⑤ 自殺企図歴・自傷痕

| | 自殺企図 | 自傷痕 | 総数 |
|-------------|-----------------------------|----------------------------------|-------|
| 両方なし | 2 (2.2) [-1.1] | 29 (31.5) | 92 |
| 家族からの被害のみあり | 2 (3.8) [-0.2] | 15 (28.8) | 52 |
| 一般被害のみあり | 14 (2.7) ▼[-2.2] | 138 (26.5) | 521 |
| 両方あり | 85 (5.1) △[2.6] | 468 (28.2) | 1,658 |
| 合計 | 103 (4.4) | 650 (28.0) | 2,323 |
| 検定結果 | (m) p=0.078 [†] | $\chi^2(3)$ =1.218 p=0.749 | |

⑥ 検挙歴

| | 殺人・強盗 | 傷害・暴行 | 窃盗 | 恐喝 | 強姦・強制わいせつ | 毒劇法 | 覚せい剤取締法 | 道交法 | 総数 |
|-------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|---|----------------------------------|----------------------------------|-------|
| 両方なし | 6 (6.5) | 28 (30.4) | 64 (69.6) [-0.5] | 19 (20.7) | 9 (9.8) | 21 (22.8) [-0.3] | 10 (10.9) | 55 (59.8) | 92 |
| 家族からの被害のみあり | 4 (7.7) | 17 (32.7) | 41 (78.8) [1.1] | 12 (23.1) | 2 (3.8) | 16 (30.8) [1.1] | 4 (7.7) | 28 (53.8) | 52 |
| 一般被害のみあり | 57 (10.9) | 186 (35.7) | 345 (66.2) ▼[-3.3] | 159 (30.5) | 37 (7.1) | 104 (20.0) ▼[-2.6] | 56 (10.7) | 292 (56.0) | 521 |
| 両方あり | 142 (8.6) | 613 (37.0) | 1,222 (73.7) △[2.9] | 501 (30.2) | 104 (6.3) | 421 (25.4) △[2.1] | 139 (8.4) | 932 (56.2) | 1,658 |
| 合計 | 209 (9.0) | 844 (36.3) | 1,672 (72.0) | 691 (29.7) | 152 (6.5) | 562 (24.2) | 209 (9.0) | 1,307 (56.3) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =3.579 p=0.311 | $\chi^2(3)$ =2.065 p=0.559 | $\chi^2(3)$ =12.496 p=0.006** | $\chi^2(3)$ =5.072 p=0.167 | $\chi^2(3)$ =2.662 p=0.447 | $\chi^2(3)$ =7.736 p=0.052 [†] | $\chi^2(3)$ =3.216 p=0.359 | $\chi^2(3)$ =0.598 p=0.897 | |

* 「毒劇法」の「両方あり」群の総数は、1,657人であり(1人欠損値)、合計の総数も1人減の2,322人である。

4 今回入院にかかわる変数

① 本件非行名

| | 殺人 | 強盗 | 傷害 | 窃盗 | 恐喝 | 覚せい剤 取締法 | 毒劇法 | 道交法 | 強姦・強 制わいせ つ・準強 姦 | 真犯 | 総数 |
|---------------------|----------------|----------------------------------|---|---|----------------------------------|----------------------------------|----------------|----------------------------------|----------------------------------|---|-------|
| 両方なし | 1 (1.1) | 5 (5.4) | 12 (13.0) ▼[-2.1] | 47 (51.1) △[2.9] | 9 (9.8) | 10 (10.9) | 3 (3.3) | 16 (17.4) | 10 (10.9) | 6 (6.5) [0.0] | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 1 (1.9) | 3 (5.8) | 8 (15.4) [-1.2] | 22 (42.3) [0.9] | 3 (5.8) | 4 (7.7) | 2 (3.8) | 8 (15.4) | 3 (5.8) | 3 (5.8) [-0.2] | 52 |
| 一般被害 のみあり | 6 (1.2) | 56 (10.7) | 114 (21.9) [-0.1] | 167 (32.1) ▼[-2.5] | 76 (14.6) | 64 (12.3) | 23 (4.4) | 112 (21.5) | 43 (8.3) | 20 (3.8) ▼[-2.7] | 521 |
| 両方あり | 14 (0.8) | 159 (9.6) | 379 (22.9) [1.4] | 616 (37.2) [0.8] | 233 (14.1) | 155 (9.3) | 92 (5.5) | 331 (20.0) | 101 (6.1) | 120 (7.2) △[2.6] | 1,658 |
| 合計 | 22 (0.9) | 223 (9.6) | 513 (22.1) | 852 (36.7) | 321 (13.8) | 233 (10.0) | 120 (5.2) | 467 (20.1) | 157 (6.8) | 149 (6.4) | 2,323 |
| 検定結果 | (m) p=0.825 | $\chi^2(3)$ =3.511 p=0.319 | $\chi^2(3)$ =6.317 p=0.097 [†] | $\chi^2(3)$ =13.892 p=0.003 ^{**} | $\chi^2(3)$ =4.423 p=0.219 | $\chi^2(3)$ =4.173 p=0.243 | (m) p=0.591 | $\chi^2(3)$ =1.792 p=0.617 | $\chi^2(3)$ =5.566 p=0.135 | $\chi^2(3)$ =7.668 p=0.053 [†] | |

② 本件非行種類

| | 凶悪犯 | 粗暴犯 | 財産犯 | 薬物事犯 | 性事犯 | 交通事故 | 総数 |
|---------------------|----------------------------------|---|---|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------|
| 両方なし | 7 (7.6) | 22 (23.9) ▼[-2.1] | 50 (54.3) [3.2] | 13 (14.1) | 10 (10.9) | 16 (17.4) | 92 |
| 家族から の被害の みあり | 6 (11.5) | 11 (21.2) ▼[-2.0] | 22 (42.3) [0.5] | 6 (11.5) | 3 (5.8) | 8 (15.4) | 52 |
| 一般被害 のみあり | 70 (13.4) | 179 (34.4) [0.3] | 173 (33.2) ▼[-2.9] | 85 (16.3) | 43 (8.3) | 112 (21.5) | 521 |
| 両方あり | 185 (11.2) | 575 (34.7) [1.3] | 653 (39.4) △[1.1] | 242 (14.6) | 101 (6.1) | 331 (20.0) | 1,658 |
| 合計 | 268 (11.5) | 787 (33.9) | 898 (38.7) | 346 (14.9) | 157 (6.8) | 467 (20.1) | 2,323 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =3.465 p=0.325 | $\chi^2(3)$ =8.366 p=0.039 [*] | $\chi^2(3)$ =16.744 p=0.001 ^{**} | $\chi^2(3)$ =1.450 p=0.694 | $\chi^2(3)$ =5.566 p=0.135 | $\chi^2(3)$ =1.792 p=0.617 | |

③ 少年院種別

| | 初等 | 中等 | 特別 | 医療 | 合計 | 検定結果 |
|---------------------|-------------------------|---------------------------|-----------------------|----------------------|------------------|-----------------------------|
| 両方なし | 21 (22.8) △[2.4] | 65 (70.7) ▼[-2.8] | 5 (5.4) [1.3] | 1 (1.1) [0.1] | 92 (100.0) | (m) p=0.053 [†] |
| 家族から の被害の みあり | 6 (11.5) [-0.6] | 42 (80.8) [-0.2] | 2 (3.8) [0.3] | 2 (3.8) △[2.1] | 52 (100.0) | |
| 一般被害 のみあり | 60 (11.5) ▼[-2.0] | 444 (85.2) △[2.4] | 14 (2.7) [-0.7] | 3 (0.6) [-1.1] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 244 (14.7) [1.0] | 1,344 (81.1) [-1.0] | 53 (3.2) [0.0] | 17 (1.0) [0.3] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 331 (14.2) | 1,895 (81.6) | 74 (3.2) | 23 (1.0) | 2,323 (100.0) | |

④ 処遇課程分類級

| | E | V | S | O | G1 | G2 | G3 | H1 | H2 | M | 合計 | 検定結果 |
|-------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|----------------------|------------------|------------------|
| 両方なし | 12 (13.0) △[2.0] | 30 (32.6) ▼[-4.0] | 14 (15.2) [-0.1] | 0 - [-0.8] | 16 (17.4) [0.5] | 0 - [-0.4] | 2 (2.2) △[3.1] | 11 (12.0) △[4.6] | 7 (7.6) △[2.7] | 0 - [-0.8] | 92 (100.0) | (m) p=0.000** |
| 家族からの被害のみあり | 2 (3.8) [-1.1] | 23 (44.2) [-1.3] | 6 (11.5) [-0.8] | 0 - [-0.6] | 9 (17.3) [0.4] | 0 - [-0.3] | 0 - [-0.4] | 5 (9.6) △[2.5] | 6 (11.5) △[3.5] | 1 (1.9) [1.2] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 29 (5.6) ▼[-2.1] | 293 (56.2) [1.7] | 97 (18.6) △[2.1] | 9 (1.7) △[3.5] | 59 (11.3) ▼[-3.0] | 3 (0.6) △[3.2] | 4 (0.8) [1.9] | 15 (2.9) [-0.8] | 11 (2.1) [-1.3] | 1 (0.2) [-1.5] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 136 (8.2) [1.4] | 883 (53.3) [0.5] | 248 (15.0) [-1.6] | 6 (0.4) ▼[-2.7] | 277 (16.7) △[2.5] | 0 - ▼[-2.7] | 2 (0.1) ▼[-2.9] | 49 (3.0) ▼[-2.0] | 44 (2.7) [-1.2] | 13 (0.8) [1.3] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 179 (7.7) | 1,229 (52.9) | 365 (15.7) | 15 (0.6) | 361 (15.5) | 3 (0.1) | 8 (0.3) | 80 (3.4) | 68 (2.9) | 15 (0.6) | 2,323 (100.0) | |

⑤ 処遇区分

| | 長期 | 短期 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|---------------------------|--------------------------|------------------|-----------------------------------|
| 両方なし | 78 (84.8) [0.3] | 14 (15.2) [-0.3] | 92 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 8.331 p=0.040* |
| 家族からの被害のみあり | 46 (88.5) [1.0] | 6 (11.5) [-1.0] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 415 (79.7) ▼[-2.8] | 106 (20.3) △[2.8] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 1,404 (84.7) △[2.1] | 254 (15.3) ▼[-2.1] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 1,943 (83.6) | 380 (16.4) | 2,323 (100.0) | |

⑥ 入院度数

| | 今回初回 | 2回目以上 | 合計 | 検定結果 |
|-------------|----------------------------|-------------------------|------------------|-------------------------------------|
| 両方なし | 74 (80.4) [0.4] | 18 (19.6) [-0.4] | 92 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 12.248 p=0.007** |
| 家族からの被害のみあり | 45 (86.5) [1.4] | 7 (13.5) [-1.4] | 52 (100.0) | |
| 一般被害のみあり | 434 (83.3) △[3.0] | 87 (16.7) ▼[-3.0] | 521 (100.0) | |
| 両方あり | 1,273 (76.8) ▼[-3.4] | 385 (23.2) △[3.4] | 1,658 (100.0) | |
| 合計 | 1,826 (78.6) | 497 (21.4) | 2,323 (100.0) | |

- 注 1 法務総合研究所の調査による。
 2 無回答を除く。
 3 「(重複回答)」とある表の各列は、該当したものをのみを挙げている。
 4 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。
 5 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で、「*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。
 6 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、▼は、期待値より有意に少ないことを示す。
 7 ()内は、構成比である。ただし、重複回答の表においては、総数に対する比率である。

資料13-5 一般被害のみあり群における被害開始時期と
初発非行時期との関係

| | 男子 | 女子 | 合計 |
|-----------|----------------|---------------|----------------|
| 初発非行→一般被害 | 130 (27.2) | 9 (24.3) | 139 (27.0) |
| 一般被害→初発非行 | 124 (25.9) | 11 (29.7) | 135 (26.2) |
| 一般被害・初発非行 | 224 (46.9) | 17 (45.9) | 241 (46.8) |
| 合計 | 478 (100.0) | 37 (100.0) | 515 (100.0) |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答及び「いつだったか覚えていない」を除く。

3 ()内は、構成比である。

4 「→」は、記号の左側が時期的に右側に先行することを、「・」は同時期であることを示す。

資料13-6 家族からの被害経験を一般被害の有無と被虐待経験の有無により分けた4群と対象者にかかわる変数とのクロス表等

1 本人の属性にかかわる変数

① 知能指数(IQ)

| | 70未満 | 70~79 | 80~89 | 90~99 | 100以上 | 合計 | 検定結果 |
|----------|------------------------|--------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|----------------------|
| 家族のみ・非虐待 | 4 (25.0) △[2.1] | 3 (18.8) [-0.2] | 6 (37.5) [1.3] | 2 (12.5) [-0.9] | 1 (6.3) [-1.6] | 16 (100.0) | (m) p=0.001** |
| 家族のみ・虐待 | 7 (20.6) △[2.2] | 12 (35.3) △[2.0] | 5 (14.7) [-1.2] | 7 (20.6) [-0.2] | 3 (8.8) ▼[-2.0] | 34 (100.0) | |
| 両方・非虐待 | 55 (11.3) [1.5] | 122 (25.0) △[2.4] | 110 (22.5) [-0.6] | 102 (20.9) [-0.9] | 99 (20.3) [-1.9] | 488 (100.0) | |
| 両方・虐待 | 92 (8.4) ▼[-2.5] | 211 (19.2) ▼[-2.9] | 264 (24.0) [0.7] | 255 (23.2) [1.2] | 278 (25.3) △[2.8] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 158 (9.6) | 348 (21.2) | 385 (23.5) | 366 (22.3) | 381 (23.3) | 1,638 (100.0) | |

② 教育歴

| | 中学在学 | 中学卒業 | 高校在学 | 高校中退 | 高校卒業 | 専修学校 等在学 | 専修学校 等中退 | 専修学校 等卒業 | その他 | 合計 | 検定結果 |
|----------|--------------|---------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------------|--------------------|
| 家族のみ・非虐待 | 2 (12.5) | 6 (37.5) | 0 - | 6 (37.5) | 1 (6.3) | 0 - | 1 (6.3) | 0 - | 0 - | 16 (100.0) | (m) p=0.163 |
| 家族のみ・虐待 | 2 (5.9) | 18 (52.9) | 2 (5.9) | 7 (20.6) | 2 (5.9) | 0 - | 2 (5.9) | 0 - | 1 (2.9) | 34 (100.0) | |
| 両方・非虐待 | 41 (8.4) | 255 (52.3) | 24 (4.9) | 139 (28.5) | 11 (2.3) | 4 (0.8) | 13 (2.7) | 1 (0.2) | 0 - | 488 (100.0) | |
| 両方・虐待 | 77 (7.0) | 502 (45.6) | 76 (6.9) | 385 (35.0) | 16 (1.5) | 4 (0.4) | 34 (3.1) | 2 (0.2) | 4 (0.4) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 122 (7.4) | 781 (47.7) | 102 (6.2) | 537 (32.8) | 30 (1.8) | 8 (0.5) | 50 (3.1) | 3 (0.2) | 5 (0.3) | 1,638 (100.0) | |

③ 入院時の学職別

| | 生徒・学生 | 無職 | 就業中 | 合計 | 検定結果 |
|----------|---------------|---------------|---------------|------------------|----------------------------------|
| 家族のみ・非虐待 | 3 (18.8) | 10 (62.5) | 3 (18.8) | 16 (100.0) | $\chi^2(6)=$ 4.084 p=0.665 |
| 家族のみ・虐待 | 6 (17.6) | 19 (55.9) | 9 (26.5) | 34 (100.0) | |
| 両方・非虐待 | 90 (18.4) | 246 (50.4) | 152 (31.1) | 488 (100.0) | |
| 両方・虐待 | 201 (18.3) | 602 (54.7) | 297 (27.0) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 300 (18.3) | 877 (53.5) | 461 (28.1) | 1,638 (100.0) | |

④ MJPI

| 尺度名 虚構* | 分散分析 | | 多重比較 | | | | |
|------------|-------------------|-------|----------|-------|---------|-------|-------|
| | F値 (3, 1, 631) | 有意確率 | 平均値 | | 比較群 | 平均値の差 | 有意確率 |
| 虚構* | 2.89 | 0.035 | 家族のみ・非虐待 | 52.13 | 家族のみ・虐待 | 1.21 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 1.56 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 2.94 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 50.91 | 両方・非虐待 | 0.35 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 1.73 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 * | 1.38 | 0.050 |
| 偏向 | 1.61 | 0.186 | 家族のみ・非虐待 | 51.06 | 家族のみ・虐待 | 1.94 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 3.87 | 0.409 |
| | | | | | 両方・虐待 | 3.58 | 0.529 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 49.12 | 両方・非虐待 | 1.92 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 1.64 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.28 | 1.000 |
| 自我防衛 | 0.50 | 0.684 | 家族のみ・非虐待 | 51.25 | 家族のみ・虐待 | 1.40 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 1.99 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 2.28 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 49.85 | 両方・非虐待 | 0.59 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 0.88 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 0.29 | 1.000 |
| 心気症 | 0.80 | 0.494 | 家族のみ・非虐待 | 55.94 | 家族のみ・虐待 | 3.61 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 2.53 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 2.00 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 52.32 | 両方・非虐待 | -1.08 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -1.62 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.53 | 1.000 |
| 自信欠如 | 0.32 | 0.814 | 家族のみ・非虐待 | 52.25 | 家族のみ・虐待 | 2.51 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 2.37 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 2.34 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 49.74 | 両方・非虐待 | -0.15 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.18 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.03 | 1.000 |
| 抑うつ | 0.08 | 0.973 | 家族のみ・非虐待 | 50.13 | 家族のみ・虐待 | -0.08 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -0.06 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.28 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 50.21 | 両方・非虐待 | 0.02 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.20 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.23 | 1.000 |
| 不安定* | 3.68 | 0.012 | 家族のみ・非虐待 | 46.25 | 家族のみ・虐待 | -5.96 | 0.313 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -2.63 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -4.11 | 0.641 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 52.21 | 両方・非虐待 | 3.32 | 0.384 |
| | | | | | 両方・虐待 | 1.85 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 * | -1.48 | 0.044 |
| 爆発 | 0.71 | 0.549 | 家族のみ・非虐待 | 48.13 | 家族のみ・虐待 | -3.73 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -2.41 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -2.81 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 51.85 | 両方・非虐待 | 1.31 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 0.92 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.40 | 1.000 |
| 爆発 | 0.71 | 0.549 | 両方・非虐待 | 50.54 | 両方・虐待 | -0.40 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 50.94 | |

| | | | | | | | |
|----------|-------|---------|----------|-------|----------|-------|-------|
| 自己顕示** | 5.95 | 0.000 | 家族のみ・非虐待 | 45.06 | 家族のみ・虐待 | -6.88 | 0.121 |
| | | | | | 両方・非虐待 † | -6.09 | 0.084 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 51.94 | 両方・虐待 * | -7.70 | 0.010 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 0.79 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.82 | 1.000 |
| 一般被害のみあり | 51.16 | 両方・虐待 * | -1.61 | 0.015 | | | |
| 両方あり | 52.77 | | | | | | |
| 過活動* | 3.27 | 0.021 | 家族のみ・非虐待 | 51.25 | 家族のみ・虐待 | -3.37 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -1.80 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 54.62 | 両方・虐待 | -3.17 | 0.937 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 1.57 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | 0.20 | 1.000 |
| 両方・非虐待 | 53.05 | 両方・虐待 * | -1.37 | 0.027 | | | |
| 両方・虐待 | 54.42 | | | | | | |
| 軽躁 † | 2.50 | 0.058 | 家族のみ・非虐待 | 48.50 | 家族のみ・虐待 | -2.50 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -3.21 | 0.948 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 51.00 | 両方・虐待 | -4.16 | 0.389 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -0.71 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -1.66 | 1.000 |
| 両方・非虐待 | 51.71 | 両方・虐待 | -0.95 | 0.306 | | | |
| 両方・虐待 | 52.66 | | | | | | |
| 従属 | 0.42 | 0.742 | 家族のみ・非虐待 | 48.31 | 家族のみ・虐待 | -2.13 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -2.12 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 50.44 | 両方・虐待 | -2.41 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | 0.01 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -0.28 | 1.000 |
| 両方・非虐待 | 50.43 | 両方・虐待 | -0.29 | 1.000 | | | |
| 両方・虐待 | 50.73 | | | | | | |
| 偏狭 † | 2.48 | 0.060 | 家族のみ・非虐待 | 49.69 | 家族のみ・虐待 | -0.46 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -1.31 | 1.000 |
| | | | 家族のみ・虐待 | 50.15 | 両方・虐待 | -2.56 | 1.000 |
| | | | | | 両方・非虐待 | -0.85 | 1.000 |
| | | | | | 両方・虐待 | -2.10 | 1.000 |
| 両方・非虐待 | 51.00 | 両方・虐待 | -1.25 | 0.108 | | | |
| 両方・虐待 | 52.25 | | | | | | |

- * 「*」及び「**」は、それぞれ有意水準5%、1%で有意差が認められることを示す。
 †は、有意水準10%での有意傾向を示す。
 各尺度名についている場合は、分散分析において4群間に有意差又は有意傾向が認められることを、比較群についている場合は、多重比較において対となる群間に有意差又は有意傾向が認められることを示す。
 * 「偏狭」の値が不明な者が1名いるため、「偏狭」のみ誤差の自由度は、表中の数値から1を減じた値になる。

2 家族にかかわる変数

① 保護者

| | 実父母 | 実父 | 実母 | 実父義母 | 義父実母 | 養父母 | その他 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------------|----------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 6 (37.5) | 5 (31.3) | 4 (25.0) | 0 (0.0) | 1 (6.3) | 0 - | 0 - | 16 (100.0) | (m) p=0.142 |
| 家族のみ・ 虐待 | 16 (47.1) | 3 (8.8) | 8 (23.5) | 2 (5.9) | 3 (8.8) | 1 (2.9) | 1 (2.9) | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 234 (48.0) | 59 (12.1) | 144 (29.5) | 10 (2.0) | 24 (4.9) | 3 (0.6) | 14 (2.9) | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 535 (48.6) | 138 (12.5) | 251 (22.8) | 45 (4.1) | 90 (8.2) | 8 (0.7) | 33 (3.0) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 791 (48.3) | 205 (12.5) | 407 (24.8) | 57 (3.5) | 118 (7.2) | 12 (0.7) | 48 (2.9) | 1,638 (100.0) | |

② きょうだい数

| | 0人 | 1人 | 2人 | 3人以上 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------|-----------------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) | 4 (25.0) | 7 (43.8) | 4 (25.0) | 16 (100.0) | $\chi^2(9)=$ 12.088 p=0.208 |
| 家族のみ・ 虐待 | 4 (11.8) | 10 (29.4) | 11 (32.4) | 9 (26.5) | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 58 (11.9) | 177 (36.3) | 151 (30.9) | 102 (20.9) | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 151 (13.7) | 433 (39.4) | 344 (31.3) | 172 (15.6) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 214 (13.1) | 624 (38.1) | 513 (31.3) | 287 (17.5) | 1,638 (100.0) | |

③ きょうだい順位

| | 一人っ子 | きょうだい あり 第1子 | きょうだい あり 第2子以降 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|------------------|------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) [-0.8] | 1 (6.3) ▼[-2.0] | 14 (87.5) △[2.4] | 16 (100.0) | (m) p=0.000** |
| 家族のみ・ 虐待 | 4 (11.8) [-0.2] | 12 (35.3) [0.8] | 18 (52.9) [-0.6] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 58 (11.9) [0.9] | 92 (18.9) ▼[-5.9] | 338 (69.3) △[6.0] | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 151 (13.7) [1.1] | 369 (33.5) △[5.9] | 580 (52.7) ▼[-6.2] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 214 (13.1) | 474 (28.9) | 950 (58.0) | 1,638 (100.0) | |

③ 父親の態度

| | 普通 | 放任 | 拒否 | 厳格 | 過干渉 | 期待過剰 | 溺愛 | 総数 |
|--------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------|-------------------------------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 2 (16.7) | 7 (58.3) | 1 (8.3) | 3 (25.0) [0.0] | 0 - | 0 - | 1 (8.3) | 12 |
| 家族のみ・ 虐待 | 10 (40.0) | 6 (24.0) | 1 (4.0) | 9 (36.0) [1.3] | 1 (4.0) | 1 (4.0) | 0 - | 25 |
| 両方・ 非虐待 | 107 (32.6) | 131 (39.9) | 22 (6.7) | 58 (17.7) ▼[-3.5] | 9 (2.7) | 6 (1.8) | 14 (4.3) | 328 |
| 両方・ 虐待 | 245 (30.4) | 293 (36.3) | 49 (6.1) | 220 (27.3) △[3.0] | 25 (3.1) | 26 (3.2) | 28 (3.5) | 807 |
| 合計 | 364 (31.1) | 437 (37.3) | 73 (6.2) | 290 (24.7) | 35 (3.0) | 33 (2.8) | 43 (3.7) | 1,172 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =2.653 p=0.448 | $\chi^2(3)$ =5.478 p=0.140 | (m) p=0.932 | $\chi^2(3)$ =13.230 p=0.004** | (m) p=0.965 | (m) p=0.477 | (m) p=0.507 | |

*父親の態度が「非該当」(父親がいない)である者を除く。

④ 母親の態度

| | 普通 | 放任 | 拒否 | 厳格 | 過干渉 | 期待過剰 | 溺愛 | 総数 |
|--------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 3 (27.3) | 5 (45.5) | 2 (18.2) [1.7] | 2 (18.2) | 2 (18.2) | 0 - | 2 (18.2) | 11 |
| 家族のみ・ 虐待 | 16 (53.3) | 8 (26.7) | 1 (3.3) [-0.6] | 2 (6.7) | 3 (10.0) | 1 (3.3) | 1 (3.3) | 30 |
| 両方・ 非虐待 | 167 (40.3) | 146 (35.3) | 16 (3.9) ▼[-2.1] | 20 (4.8) | 37 (8.9) | 16 (3.9) | 60 (14.5) | 414 |
| 両方・ 虐待 | 349 (37.7) | 280 (30.2) | 63 (6.8) [1.9] | 63 (6.8) | 103 (11.1) | 45 (4.9) | 119 (12.9) | 926 |
| 合計 | 535 (38.7) | 439 (31.8) | 82 (5.9) | 87 (6.3) | 145 (10.5) | 62 (4.5) | 182 (13.2) | 1,381 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =4.178 p=0.243 | $\chi^2(3)$ =4.646 p=0.200 | (m) p=0.056 [†] | (m) p=0.180 | (m) p=0.530 | (m) p=0.713 | (m) p=0.292 | |

*母親の態度が「非該当」(母親がいない)である者を除く。

⑤ 経済状況

| | 生活保護 受給 | 貧困 | 普通 | 富裕 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|-------------|---------------|-----------------|-------------|------------------|----------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) | 5 (31.3) | 10 (62.5) | 0 - | 16 (100.0) | (m) p=0.869 |
| 家族のみ・ 虐待 | 2 (6.1) | 7 (21.2) | 23 (69.7) | 1 (3.0) | 33 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 25 (5.2) | 123 (25.6) | 324 (67.4) | 9 (1.9) | 481 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 49 (4.5) | 243 (22.4) | 760 (70.2) | 31 (2.9) | 1,083 (100.0) | |
| 合計 | 77 (4.8) | 378 (23.4) | 1,117 (69.2) | 41 (2.5) | 1,613 (100.0) | |

⑥ 親の負因

| | なし | あり | 合計 | 検定結果 |
|--------------|-------------------------|------------------------|------------------|--|
| 家族のみ・ 非虐待 | 12 (75.0) [-0.9] | 4 (25.0) [0.9] | 16 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 7.601 $p=0.055^\dagger$ |
| 家族のみ・ 虐待 | 23 (67.6) ▼[-2.5] | 11 (32.4) △[2.5] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 414 (84.8) [1.1] | 74 (15.2) [-1.1] | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 914 (83.1) [-0.2] | 186 (16.9) [0.2] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 1,363 (83.2) | 275 (16.8) | 1,638 (100.0) | |

⑦ 実父の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|--------------|-----------------------|------------------|------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) [-0.2] | 1 (6.3) | 0 - | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 7 (20.6) △[2.8] | 4 (11.8) | 2 (5.9) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 36 (7.4) [-0.4] | 23 (4.7) | 12 (2.5) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 84 (7.6) [-0.4] | 74 (6.7) | 24 (2.2) | 1,100 |
| 合計 | 128 (7.8) | 102 (6.2) | 38 (2.3) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) $p=0.048^*$ | (m) $p=0.220$ | (m) $p=0.414$ | |

⑧ 義父の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|--------------|------------------|----------------------|------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - | 1 (6.3) △[3.1] | 0 - | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 0 - | 0 - [-1.4] | 0 - | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 4 (0.8) | 0 - ▼[-2.0] | 2 (0.4) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 9 (0.8) | 8 (0.7) [1.4] | 4 (0.4) | 1,100 |
| 合計 | 13 (0.8) | 9 (0.5) | 6 (0.4) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) $p=1.000$ | (m) $p=0.037^*$ | (m) $p=1.000$ | |

⑨ 実母の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|--------------|----------------|----------------|----------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) | 0 - | 0 - | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 0 - | 0 - | 0 - | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 13 (2.7) | 9 (1.8) | 9 (1.8) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 23 (2.1) | 13 (1.2) | 14 (1.3) | 1,100 |
| 合計 | 37 (2.3) | 22 (1.3) | 23 (1.4) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=0.437 | (m) p=0.514 | (m) p=0.592 | |

⑩ 義母の負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|--------------|----------------|------------|------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - | 0 | 0 | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 0 - | 0 | 0 | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 0 - | 0 | 0 | 488 |
| 両方・ 虐待 | 1 (0.1) | 0 | 0 | 1,100 |
| 合計 | 1 (0.1) | 0 | 0 | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=1.000 | 検定不能 | 検定不能 | |

⑪ きょうだいの負因

| | 犯罪・ 非行 | 酒乱・ アル中 | 薬物使用 | 総数 |
|--------------|-------------------------------------|----------------|------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 3 (20.0) [0.3] | 0 - | 0 - [-0.7] | 15 |
| 家族のみ・ 虐待 | 8 (26.7) [1.3] | 0 - | 5 (16.7) △[4.1] | 30 |
| 両方・ 非虐待 | 99 (23.0) △[3.6] | 1 (0.2) | 20 (4.7) [1.9] | 430 |
| 両方・ 虐待 | 139 (14.6) ▼[-4.0] | 2 (0.2) | 22 (2.3) ▼[-2.9] | 949 |
| 合計 | 249 (17.5) | 3 (0.2) | 47 (3.3) | 1,424 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =16.257 p=0.001** | (m) p=1.000 | (m) p=0.001** | |

(一人っ子を除く。)

⑫ 実父母離婚歴

| | なし | あり | 合計 | 検定結果 |
|--------------|---------------|---------------|------------------|----------------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 8 (50.0) | 8 (50.0) | 16 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 0.831 p=0.842 |
| 家族のみ・ 虐待 | 19 (55.9) | 15 (44.1) | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 276 (56.6) | 212 (43.4) | 488 (100.0) | |
| 両方・ 被虐待 | 598 (54.4) | 502 (45.6) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 901 (55.0) | 737 (45.0) | 1,638 (100.0) | |

3 問題行動歴にかかわる変数

① 初発非行時期

| | 小学校 以前 | 小学生 | 中学生 | 中卒以後 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|----------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|------------------|-----------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - [-0.7] | 6 (37.5) [0.6] | 4 (25.0) ▼[-2.2] | 6 (37.5) △[2.6] | 16 (100.0) | (m) p=0.067 [†] |
| 家族のみ・ 虐待 | 0 - [-1.0] | 9 (26.5) [-0.5] | 16 (47.1) [-0.6] | 9 (26.5) △[2.0] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 9 (1.8) [-1.5] | 152 (31.2) [0.4] | 259 (53.2) [0.6] | 67 (13.8) [-0.7] | 487 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 36 (3.3) [1.9] | 333 (30.3) [-0.3] | 573 (52.1) [0.1] | 158 (14.4) [-0.5] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 45 (2.7) | 500 (30.5) | 852 (52.0) | 240 (14.7) | 1,637 (100.0) | |

② 初発非行時期と家族からの被害あるいは虐待を受け始めた時期との関係

| | 非行 先行 | 同時期 | 被害/ 虐待先行 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------|-----------------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.7) [-0.1] | 10 (66.7) △[3.1] | 4 (26.7) ▼[-2.9] | 15 (100.0) | $\chi^2(9) = 90.133$ p=0.000** |
| 家族のみ・ 虐待 | 2 (5.9) [-0.3] | 6 (17.6) [-1.6] | 26 (76.5) [1.7] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 62 (13.6) △[6.1] | 180 (39.4) △[5.0] | 215 (47.0) ▼[-8.0] | 457 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 51 (4.7) ▼[-5.8] | 287 (26.4) ▼[-5.0] | 750 (68.9) △[7.9] | 1,088 (100.0) | |
| 合計 | 116 (7.3) | 483 (30.3) | 995 (62.4) | 1,594 (100.0) | |

③ 薬物使用歴

| | シンナー | 覚せい剤 | 総数 |
|--------------|--------------------------------|--------------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 4 (25.0) | 2 (12.5) | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 15 (44.1) | 5 (14.7) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 251 (51.4) | 74 (15.2) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 546 (49.6) | 203 (18.5) | 1,100 |
| 合計 | 816 (49.8) | 284 (17.3) | 1,638 |
| 検定結果 | $\chi^2(3) = 4.908$ p=0.179 | $\chi^2(3) = 2.992$ p=0.393 | |

④ 反社会集団加入歴

| | 暴走族 | 暴力団 | 総数 |
|-----------------|--------------------------------|-----------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 6 (37.5) | 0 - [-1.0] | 16 |
| 家族の み・ 虐待 | 10 (29.4) | 2 (5.9) [0.1] | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 200 (41.0) | 16 (3.3) ▼[-2.4] | 488 |
| 両方・ 虐待 | 447 (40.6) | 70 (6.4) △[2.5] | 1,100 |
| 合計 | 663 (40.5) | 88 (5.4) | 1,638 |
| 検定結果 | $\chi^2(3) = 1.850$ p=0.604 | (m) p=0.069 [†] | |

⑤ 児童相談所係属歴・施設入所歴

| | 児童相談 所係属 | 養護施設 入所 | 児童自立 支援施設 入所 | 総数 |
|--------------|----------------------------------|----------------|----------------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 6 (37.5) | 1 (6.3) | 2 (12.5) | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 11 (32.4) | 3 (8.8) | 6 (17.6) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 116 (23.8) | 38 (7.8) | 68 (13.9) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 281 (25.5) | 76 (6.9) | 178 (16.2) | 1,100 |
| 合計 | 414 (25.3) | 118 (7.2) | 254 (15.5) | 1,638 |
| 検定結果 | $\chi^2(3)$ =2.795 p=0.424 | (m) p=0.922 | $\chi^2(3)$ =1.533 p=0.675 | |

⑥ 自殺企図歴・自傷痕

| | 自殺企図 | 自傷痕 | 総数 |
|--------------|----------------|----------------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) | 5 (31.3) | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 1 (2.9) | 10 (29.4) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 17 (3.5) | 128 (26.2) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 62 (5.6) | 316 (28.7) | 1,100 |
| 合計 | 81 (4.9) | 459 (28.0) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=0.276 | $\chi^2(3)$ =1.164 p=0.762 | |

⑦ 検挙歴

| | 殺人・ 強盗 | 傷害・ 暴行 | 窃盗 | 恐喝 | 強姦・ 強制 わいせつ | 毒劇法 | 覚せい剤 取締法 | 道交法 | 総数 |
|--------------|----------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------|----------------------------------|----------------|----------------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 1 (6.3) | 1 (6.3) ▼[-2.5] | 12 (75.0) | 2 (12.5) | 1 (6.3) | 2 (12.5) | 2 (12.5) | 11 (68.8) | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 3 (8.8) | 16 (47.1) [1.3] | 27 (79.4) | 10 (29.4) | 1 (2.9) | 13 (38.2) | 2 (5.9) | 16 (47.1) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 49 (10.0) | 185 (37.9) [0.7] | 357 (73.2) | 138 (28.3) | 30 (6.1) | 127 (26.0) | 32 (6.6) | 282 (57.8) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 88 (8.0) | 399 (36.3) [-0.5] | 817 (74.3) | 334 (30.4) | 69 (6.3) | 275 (25.0) | 102 (9.3) | 613 (55.7) | 1,100 |
| 合計 | 141 (8.6) | 601 (36.7) | 1,213 (74.1) | 484 (29.5) | 101 (6.2) | 417 (25.5) | 138 (8.4) | 922 (56.3) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=0.625 | $\chi^2(3)$ =8.351 p=0.039* | $\chi^2(3)$ =0.748 p=0.862 | $\chi^2(3)$ =2.963 p=0.397 | (m) p=0.914 | $\chi^2(3)$ =4.531 p=0.210 | (m) p=0.257 | $\chi^2(3)$ =2.773 p=0.428 | |

* 「毒劇法」の「両方・虐待」群の総数は、1,099人であり(1人欠損値)、合計の総数も1人減の1,637人である。

4 今回入院にかかわる変数

① 本件非行名

| | 殺人 | 強盗 | 傷害 | 窃盗 | 恐喝 | 覚せい剤 取締法 | 毒劇法 | 道交法 | 強姦・強 制わいせ つ・準強 姦 | 虞犯 | 総数 |
|--------------|----------------|------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------|----------------|----------------|----------------------------------|---------------------------|----------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - | 0 - [-1.3] | 2 (12.5) | 8 (50.0) | 0 - [-1.6] | 2 (12.5) | 0 - | 5 (31.3) | 1 (6.3) | 0 - | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 1 (2.9) | 3 (8.8) [-0.2] | 6 (17.6) | 13 (38.2) | 2 (5.9) [-1.3] | 2 (5.9) | 2 (5.9) | 3 (8.8) | 2 (5.9) | 3 (8.8) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 3 (0.6) | 61 (12.5) △[2.5] | 122 (25.0) | 175 (35.9) | 57 (11.7) [-1.5] | 46 (9.4) | 25 (5.1) | 101 (20.7) | 28 (5.7) | 29 (5.9) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 10 (0.9) | 95 (8.6) ▼[-2.1] | 238 (21.6) | 416 (37.8) | 164 (14.9) △[2.2] | 103 (9.4) | 63 (5.7) | 218 (19.8) | 68 (6.2) | 86 (7.8) | 1,100 |
| 合計 | 14 (0.9) | 159 (9.7) | 368 (22.5) | 612 (37.4) | 223 (13.6) | 153 (9.3) | 90 (5.5) | 327 (20.0) | 99 (6.0) | 118 (7.2) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=0.468 | (m) p=0.056† | $\chi^2(3)$ =3.599 p=0.308 | $\chi^2(3)$ =1.671 p=0.643 | (m) p=0.062† | (m) p=0.880 | (m) p=0.779 | $\chi^2(3)$ =4.095 p=0.251 | (m) p=0.970 | (m) p=0.355 | |

② 本件非行種類

| | 凶悪犯 | 粗暴犯 | 財産犯 | 薬物事犯 | 性事犯 | 交通事犯 | 総数 |
|--------------|--------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------|----------------------------------|-------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - [-1.4] | 2 (12.5) | 8 (50.0) | 2 (12.5) | 1 (6.3) | 5 (31.3) | 16 |
| 家族のみ・ 虐待 | 5 (14.7) [-0.6] | 8 (23.5) | 13 (38.2) | 4 (11.8) | 2 (5.9) | 3 (8.8) | 34 |
| 両方・ 非虐待 | 70 (14.3) △[2.5] | 175 (35.9) | 188 (38.5) | 71 (14.5) | 28 (5.7) | 101 (20.7) | 488 |
| 両方・ 虐待 | 110 (10.0) ▼[-2.4] | 375 (34.1) | 438 (39.8) | 161 (14.6) | 68 (6.2) | 218 (19.8) | 1,100 |
| 合計 | 185 (11.3) | 560 (34.2) | 647 (39.5) | 238 (14.5) | 99 (6.0) | 327 (20.0) | 1,638 |
| 検定結果 | (m) p=0.035* | $\chi^2(3)$ =5.673 p=0.129 | $\chi^2(3)$ =1.002 p=0.801 | $\chi^2(3)$ =0.273 p=0.965 | (m) p=0.970 | $\chi^2(3)$ =4.095 p=0.251 | |

③ 少年院種別

| | 初等 | 中等 | 特別 | 医療 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|---------------|-----------------|-------------|-------------|------------------|----------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 2 (12.5) | 14 (87.5) | 0 - | 0 - | 16 (100.0) | (m) p=0.930 |
| 家族のみ・ 虐待 | 4 (11.8) | 27 (79.4) | 2 (5.9) | 1 (2.9) | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 77 (15.8) | 392 (80.3) | 14 (2.9) | 5 (1.0) | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 157 (14.3) | 897 (81.5) | 34 (3.1) | 12 (1.1) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 240 (14.7) | 1,330 (81.2) | 50 (3.1) | 18 (1.1) | 1,638 (100.0) | |

④ 処遇課程分類級

| | E | V | S | O | G1 | G3 | H1 | H2 | M | 合計 | 検定結果 |
|--------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|------------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|------------------|-----------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 0 - [-1.2] | 7 (43.8) [-0.8] | 3 (18.8) [0.4] | 0 - [-0.2] | 3 (18.8) [0.2] | 0 - [-0.1] | 3 (18.8) △[3.8] | 0 - [0.7] | 0 - [-0.4] | 16 (100.0) | (m) p=0.015* |
| 家族のみ・ 虐待 | 2 (5.9) [-0.5] | 16 (47.1) [-0.7] | 2 (5.9) [-1.5] | 0 - [-0.4] | 6 (17.6) [0.2] | 0 - [-0.2] | 1 (2.9) [0.0] | 6 (17.6) △[5.2] | 1 (2.9) [1.3] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 51 (10.5) △[2.2] | 250 (51.2) [-1.1] | 80 (16.4) [1.1] | 5 (1.0) △[2.9] | 71 (14.5) [-1.4] | 1 (0.2) [0.6] | 18 (3.7) [1.2] | 10 (2.0) [-1.3] | 2 (0.4) [-1.3] | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 81 (7.4) [-1.7] | 599 (54.5) [1.4] | 159 (14.5) [-0.7] | 1 (0.1) ▼[-2.6] | 191 (17.4) [1.3] | 1 (0.1) [-0.5] | 26 (2.4) [-1.9] | 31 (2.8) [-0.2] | 11 (1.0) [0.9] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 134 (8.2) | 872 (53.2) | 244 (14.9) | 6 (0.4) | 271 (16.5) | 2 (0.1) | 48 (2.9) | 47 (2.9) | 14 (0.9) | 1,638 (100.0) | |

⑤ 処遇区分

| | 長期 | 短期 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|-----------------|---------------|------------------|----------------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 13 (81.3) | 3 (18.8) | 16 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 4.654 p=0.199 |
| 家族のみ・ 虐待 | 32 (94.1) | 2 (5.9) | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 403 (82.6) | 85 (17.4) | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 940 (85.5) | 160 (14.5) | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 1,388 (84.7) | 250 (15.3) | 1,638 (100.0) | |

⑥ 入院回数

| | 今回初回 | 2回目以上 | 合計 | 検定結果 |
|--------------|--------------------------|-------------------------|------------------|-----------------------------------|
| 家族のみ・ 非虐待 | 15 (93.8) [1.6] | 1 (6.3) [-1.6] | 16 (100.0) | $\chi^2(3)=$ 8.960 p=0.030* |
| 家族のみ・ 虐待 | 29 (85.3) [1.1] | 5 (14.7) [-1.1] | 34 (100.0) | |
| 両方・ 非虐待 | 393 (80.5) △[2.0] | 95 (19.5) ▼[-2.0] | 488 (100.0) | |
| 両方・ 虐待 | 829 (75.4) ▼[-2.7] | 271 (24.6) △[2.7] | 1,100 (100.0) | |
| 合計 | 1,266 (77.3) | 372 (22.7) | 1,638 (100.0) | |

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 無回答を除く。

3 「(重複回答)」とある表の各列は、該当したものを挙げています。

4 「検定結果」欄の(m)は、モンテカルロ法によるものであることを示す。

5 「検定結果」欄の「**」は、有意水準1%以下で、「*」は有意水準5%以下で、それぞれ有意差が見られることを示す。

「†」は、有意水準10%以下での、有意傾向があることを示す。

6 []内は、調整済み残差であり、△は期待値より有意に多いことを、

▼は、期待値より有意に少ないことを示す。

7 ()内は、構成比である。ただし、重複回答の表においては、総数に対する比率である。

法務総合研究所研究部報告 19

平成 14 年 3 月 印刷

平成 14 年 3 月 発行

東京都千代田区霞が関 1-1-1

編集兼 法務総合研究所
発行人

印刷所 ヨシダ印刷両国工場
